

# 第 1 部：総論



---

---

# 第 1 章

## 計画策定の趣旨

---

---



# 1 計画の目的

介護保険制度が施行された年である平成 12 年 10 月 1 日時点で、葉山町の 65 歳以上高齢者数は 6,312 人、高齢化率 20.1%であったものが、平成 26 年 10 月 1 日時点で 9,986 人、29.8%まで上昇しており、今後も団塊の世代を中心として 65 歳以上高齢者数は増加し続けていくと見込まれます。

しかしながら、高齢者にはこれまでの人生で培ってきた「知識」や「経験」という大きな財産があります。

葉山町の特徴として、比較的元気な高齢者が多いこと、主治医を持っている方の割合が高いことなどが掲げられ、今後、在宅医療・介護との連携、介護予防事業、認知症施策の推進に力を入れていく必要があります。

また、もう 1 つの特徴として、持ち家率が高いこと、地域のコミュニティは比較的機能していること、このままの現在の住まいを継続させたいと願っている高齢者が多いことが挙げられます。

地域でお互い助け合いながら、年齢を重ねても可能な限り葉山町で暮らしていける町づくりを行うため、地域福祉活動を推進している社会福祉協議会と協働した取り組みを行うことが重要となっております。

更に、今後、ますます高齢化が進展していく中、介護保険料の上昇を可能な限り抑制しながらも、介護が必要な状態になった際は、十分な介護保険サービスが提供できるよう、適正な給付管理を行う必要があります。

このような状況において、本町では、団塊の世代が全員 75 歳以上となる平成 37 年度を見据えた上で、「お互いに支え合い、いきいきと健康に過ごせるまち はやま」を基本理念として平成 29 年度までの高齢者福祉及び介護保険事業の計画目標を盛り込んだ「第 6 期（平成 27 年度～平成 29 年度）高齢者福祉計画・介護保険事業計画」を策定し、年齢を重ねても葉山町で生き生きと暮らしていける町づくりを行ってまいります。

皆様のご理解とお力添えをお願いいたします。

## 2 計画の位置づけ

### (1) 高齢者福祉計画・介護保険事業計画の性格

第3期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の根拠法のひとつであった老人保健法が平成19年度で廃止され、老人保健事業として実施していた事業が、健康増進法や高齢者の医療の確保に関する法律に基づく事業へ移行されたことを踏まえ、第4期計画から保健計画部分を分離して、高齢者福祉計画・介護保険事業計画として計画を策定しています。

#### 高齢者福祉計画とは

高齢者福祉計画とは、老人福祉法第20条の8に規定された計画で、老人居宅生活支援事業及び老人福祉施設による事業の供給体制の確保をはじめとする高齢者の福祉について定めるものです。

具体的には、介護サービス基盤の整備を含む高齢者の総合的なプランとして、高齢者福祉施策の基本的方向、今後取り組むべき具体的な施策、計画の推進体制などを盛り込んだ内容となります。高齢者福祉計画は、介護保険事業計画と一体のものとして作成する必要があります。

#### 介護保険事業計画とは

介護保険事業計画とは、介護保険法第117条第1項に規定された計画で、国の基本指針に即して、3年を一期とする介護保険事業に係る保険給付の円滑な実施について定めるものです。国による基本指針は次の通りです。

#### 1 市町村介護保険事業計画の作成に関する基本的事項

基本理念、達成しようとする目的及び地域の実情に応じた特色の明確化  
平成37年度の推計及び第6期の目標  
市町村介護保険事業計画作成のための体制の整備  
要介護者等地域の実態の把握  
日常生活圏域の設定  
他の計画との関係  
その他

#### 2 市町村介護保険事業計画の基本的記載事項

日常生活圏域  
各年度における介護給付等対象サービスの種類ごとの量の見込み  
各年度における地域支援事業の量の見込み

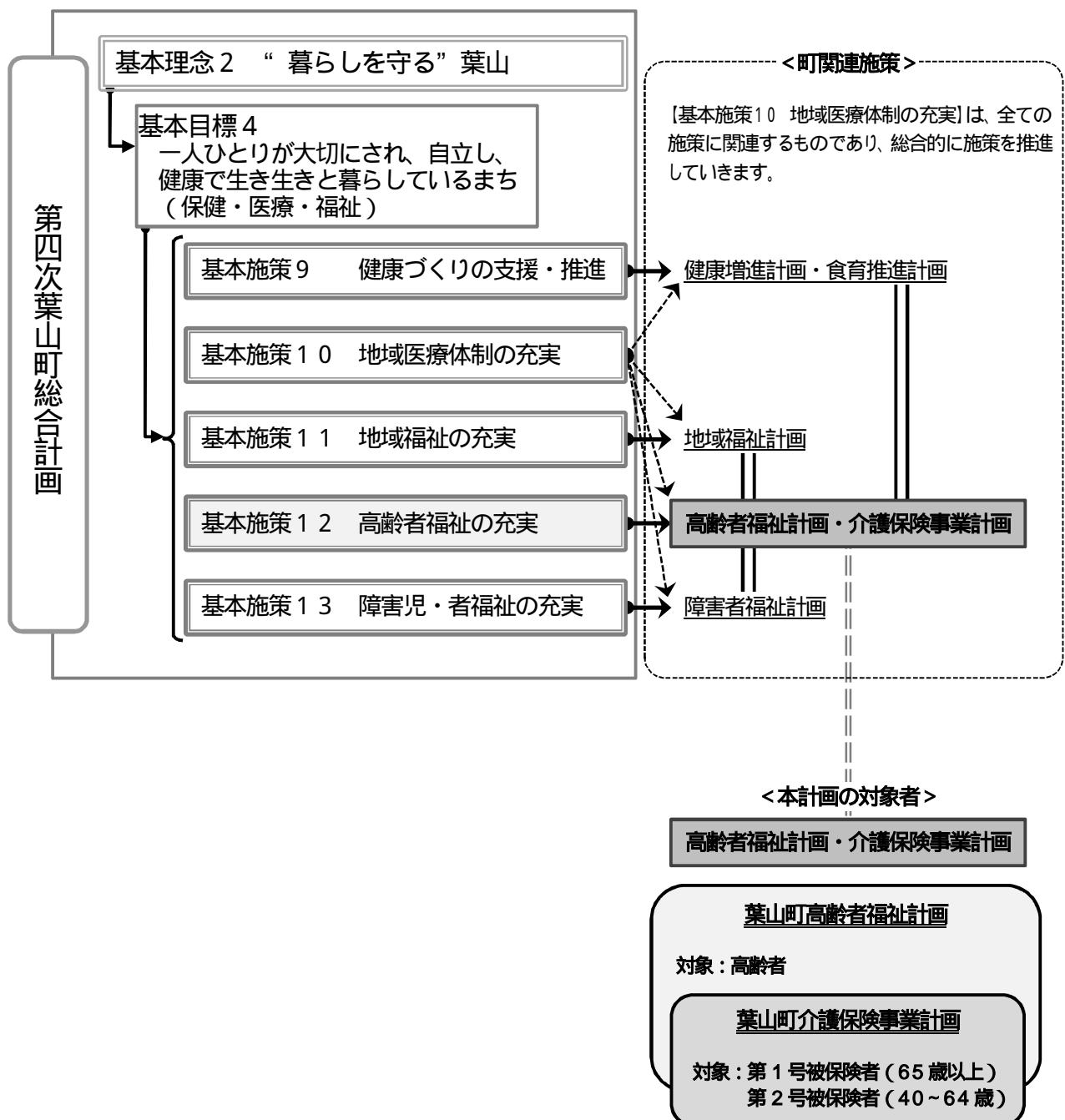
#### 3 市町村介護保険事業計画の任意記載事項

地域包括ケアシステム構築のため重点的に取り組むことが必要な事項  
各年度における介護給付等対象サービスの種類ごとの見込量の確保のための方策  
各年度における地域支援事業に要する費用の額及びその見込量の確保のための方策  
介護給付等対象サービス及び地域支援事業の円滑な提供を図るための事業等に関する事項  
地域包括支援センター及び生活支援・介護予防サービスの情報公表に関する事項  
市町村独自事業に関する事項  
介護給付等に要する費用の適正化に関する事項  
療養病床の円滑な転換を図るための事業に関する事項

## ( 2 ) 総合計画との位置づけ

高齢者福祉計画は、介護保険事業計画を包含した一体的な計画とします。

また、「第四次葉山町総合計画基本構想」における保健・医療・福祉分野の基本目標である「一人ひとりが大切にされ、自立し、健康で生き生きと暮らしているまち」を踏まえて計画策定を行うことで、本計画の上位計画にあたる「葉山町総合計画」との整合を図りました。



### 3 計画期間

この計画の計画期間は、平成 27 年度から平成 29 年度までの 3 か年の計画とします。

今後、介護需要の変化、基盤整備の状況、介護保険財政の状況等、計画の進捗管理を常に行いながら、平成 29 年度中に再度見直しを行うこととします。

【諸計画の期間】

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期
平成 12 年	●					
平成 13 年	┆					
平成 14 年	┆					
平成 15 年	┆	●				
平成 16 年	┆	┆				
平成 17 年		┆				
平成 18 年		┆	●			
平成 19 年		┆	┆			
平成 20 年			┆			
平成 21 年				●		
平成 22 年				┆		
平成 23 年				┆		
平成 24 年					●	
平成 25 年					┆	
平成 26 年					┆	
平成 27 年						↑
平成 28 年						↓
平成 29 年						↕



## 4 計画策定にあたって

### (1) 計画策定のための体制

---

#### 住民参加による計画策定

計画策定にあたっては、保健医療関係者及び被保険者代表からなる委員で構成する「葉山町介護保険事業計画等運営委員会」(以下「運営委員会」)で、計画案を検討しました。

#### 高齢者の実態把握

本計画の対象である要支援・要介護認定者とその介護者、要支援・要介護認定者を除く高齢者の実態及び意向等を把握するため、また、介護サービスの提供状況を精査するために、各種アンケート調査を実施しました。

#### 住民への意見募集(パブリック・コメントの実施)

計画策定にあたっては、計画の素案を住民に公開し、広く意見募集を行いました。意見募集の方法としては、町ホームページ、町役場1階福祉課窓口、町政情報コーナー、保健センター、図書館及び福祉文化会館に意見募集案内と計画素案を掲示するとともに、「広報はやま」にも、意見募集のお知らせを掲載しました。

### (2) 日常生活圏域の考え方

---

#### 日常生活圏域とは

市町村は、地理的条件、人口、交通事情その他の社会的条件、介護給付等対象サービスを提供するための施設の整備状況その他の条件を総合的に勘案して、各市町村の高齢化のピーク時まで目指すべき地域包括ケアシステムを構築する区域を念頭において、地域の実情に応じた日常生活圏域を定めることとなっております。

## 葉山町における日常生活圏域について

本町では、全町を一体の日常生活圏域と設定します。

本町は、三浦半島の西北部に位置し、北は逗子市、東部、南部は横須賀市に接し、西は相模湾に面していて、面積 17.06 km<sup>2</sup>、人口 33,556 人（平成 26 年 10 月 1 日現在）の海と緑に囲まれた自然豊かな町です。

町内の移動に大きな時間がかからず、公共交通手段であるバス便の多くは逗子駅に向けて運行されており、また、介護施設も町内全域に所在しております。

以上の条件を勘案し、本町では明確に地区を分割するような日常生活圏域は形成されていないと判断し、全町を一体の日常生活圏域とします。

なお、地域包括支援センターについては、第 6 期計画期間中は、町内全域を一体的に把握し、地域住民、行政機関、介護保険事業者、医療機関等との連携を密接に取れるよう 1 か所に事業を集約し積極的に地域を訪問できる体制を構築し、総合相談窓口機能、各種機関との連携拠点としての機能強化に努めてまいります。今後の町内状況を勘案し、必要に応じ増設を検討するなど、地域包括ケア推進の核となる機能の強化を図ってまいります。

	通所リハビリテーション	通所介護	認知症対応型通所介護	短期入所生活介護	短期入所療養介護	特定施設（有料老人ホーム）	認知症対応型共同生活介護事業所（グループホーム）	介護老人福祉施設（特養）	介護老人保健施設
木古庭	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上山口	-	2	-	2	-	-	-	1	-
下山口	-	-	-	-	-	-	-	-	-
一色	2	3	-	1	2	2	-	1	2
堀内	-	2	1	-	-	2	-	-	-
長柄	-	2	-	-	-	-	3	-	-
合計	2	9	1	3	2	4	3	2	2

平成 26 年 10 月現在

特定施設(有料老人ホーム)は、全て混合型の施設

認知症対応型共同生活介護事業所(グループホーム)施設数はユニット数

短期入所療養介護、介護老人保健施設は、ユニット型は別として計上

### ( 3 ) 重点目標

---

第 6 期計画では、地域包括ケアの実現を目指すため、次の 4 点を重点施策として基本目標に盛り込みました。

#### 介護予防事業、9 0 圭賜Ü 嬭懊次驍判勲闕餃" 白裾倍黥餉

各種介護予防事業を充実させ、葉山町全体として、これからも元気で健康な状態を維持してまいります。

また、年齢を重ねても可能な限り自宅で過ごしていくためには、日頃から自分の健康状態を把握し、日常生活を管理することが大切であることから、かかりつけ医、かかりつけ歯科医を持つことの重要性を周知するとともに、医療と介護の連携に向けて、その環境づくりに努めます。

#### 鞞衰範校情賜Ü 嬭€ 楯鯨鵠紳鯨驍" 箕心 驍判勲闕餃" 白裾倍黨餉

元気な高齢者が支え手となりお互いさまの地域づくりを行うため、社会福祉協議会と協議し生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）を設置するとともに、介護予防事業の充実、新総合事業に対応できる地域ボランティア等の育成などに努めます。

#### 鞞圻欄曉負膝驍判勲闕餃" 白裾倍黥餉

認知症を知り、認知症を理解する地域の実現のため、認知症サポーター養成講座の開催、認知症予防教室の充実を行うとともに、認知症ケアパスの作成、認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員の設置を目指します。

#### 鞞 衰範肝驍校情顯Ü 嬭 樂) 許驍判勲闕餃" 白裾倍黥餉

可能な限り現在の住まいを継続できるよう、緊急通報システム、配食サービス、徘徊高齢者 SOS ネットワーク等見守り活動の推進を図るとともに、地域密着型介護老人福祉施設<sup>1</sup>、夜間対応型訪問介護事業所<sup>2</sup>、訪問看護事業所の新規整備、小規模多機能型居宅介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護などの各種介護サービスの普及推進に努めます。

1 地域密着型介護老人福祉施設とは、定員 29 人以下の特別養護老人ホームで、原則所在市町村民しか入所することができません。

2 夜間対応型訪問介護事業所とは、夜間に定期的な巡回または随時の通報により介護福祉士等の訪問介護員が居宅を訪問して訪問介護サービス提供するもので、その提供時間帯は最低限 22 時から 6 時までを含みます。

## 5 計画の推進に向けて

### (1) 地域包括ケアシステムの構築

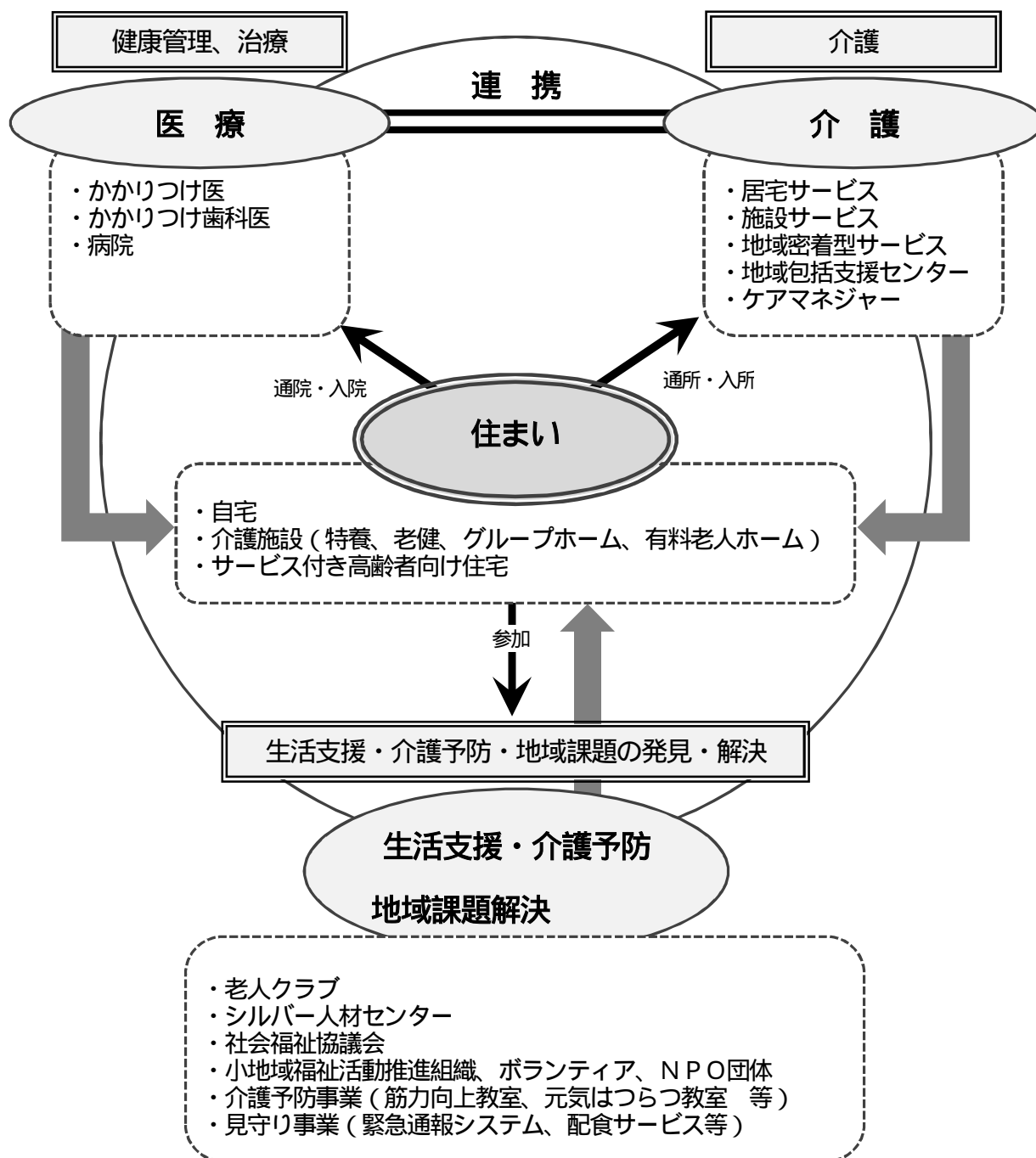
団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる平成37年に向け、単身高齢者世帯や高齢者夫婦のみ世帯、認知症高齢者の増加が予想される中、介護が必要な状態になっても住み慣れた葉山町で暮らし続けることができるよう、介護だけではなく、医療や予防、生活支援、住まいを一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築が重要な政策課題となっております。

本町の特徴として、持ち家率が高く、現在の住まいをこのまま継続させたいと希望される方が多いことから、逗葉医師会、逗葉歯科医師会と連携しながら、かかりつけ医、かかりつけ歯科医を持ち、普段から自分の健康に気をつけられる体制を構築するとともに、医療と介護が連携してサービス提供を行なえる環境づくりに努め、在宅での生活を支援してまいります。

更に、介護が必要な状態になっても、可能な限り自宅で過ごしていけるよう、小規模多機能型居宅介護事業所、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所などの各種介護サービスの普及推進、夜間対応型訪問介護事業所、訪問看護事業所の新規整備に取り組んでまいります。

また、比較的コミュニティが確立されていることもあり、住民の困りごとは住民で解決できる体制づくりを目指すはやま住民福祉センターの取り組みへの支援を行うとともに、社会福祉協議会、小地域福祉活動関係者と連携し、平成29年4月までに移行する新総合事業に対応するため、小地域福祉活動推進組織、住民ボランティア団体、NPO団体の育成、高齢者の生きがい対策として老人クラブ、シルバー人材センターへの活動支援を行ってまいります。

【葉山町の目指す地域包括ケアシステム】



## ( 2 ) 国・県との連携

---

本計画の推進にあたっては、下記の事項について、国や県と密接な連携を図りながら、施策の実行に努めます。

また、地方公共団体の責務として、住民のニーズを的確に把握しながら、利用者本位のより良い制度に向けて、国・県に対して必要な要望を行うとともに、行財政上の措置を要望していきます。

制度全般の運営  
施設整備等のサービス基盤整備  
サービス提供事業者の指導  
介護保険事業所情報の提供  
その他

## ( 3 ) 町内組織との連携

---

年齢を重ねても幸せな笑顔で過ごしていける町をつくるために、介護保険事業所のみならず、様々な町内組織と連携してまいります。

制度の谷間にあって対応できない困難ケースや、公的な福祉サービスだけでは対応しきれない地域の多様なニーズについて、積極的に課題を発見し、解決していくことを目指す取り組みが必要になっており、町内会、自治会、民生委員・児童委員、社会福祉協議会、ボランティア団体、NPO団体などとの連携を図ってまいります。

更に、健康管理を行うためにも逗葉医師会、逗葉歯科医師会と連携し、かかりつけ医、かかりつけ歯科医を持ち自分の健康状態を把握することを引き続き推奨するとともに、医療と介護が連携できる環境づくりに努めてまいります。

## ( 4 ) 町各種施策との連携

---

この計画を確実に実施していくため、障害があっても安心して年を重ねられるよう障害福祉施策との連携を図るとともに、キッチンはやまや初心者ヨガ教室など生涯学習関連事業への参加の呼びかけ、認知症サポーター養成講座を役場職員に対し実施するなど、関連各課による各種施策との連携を更に強化し、町ぐるみで高齢者施策の推進にあたります。

---

---

## 第2章

### 葉山町における高齢者の現状

---

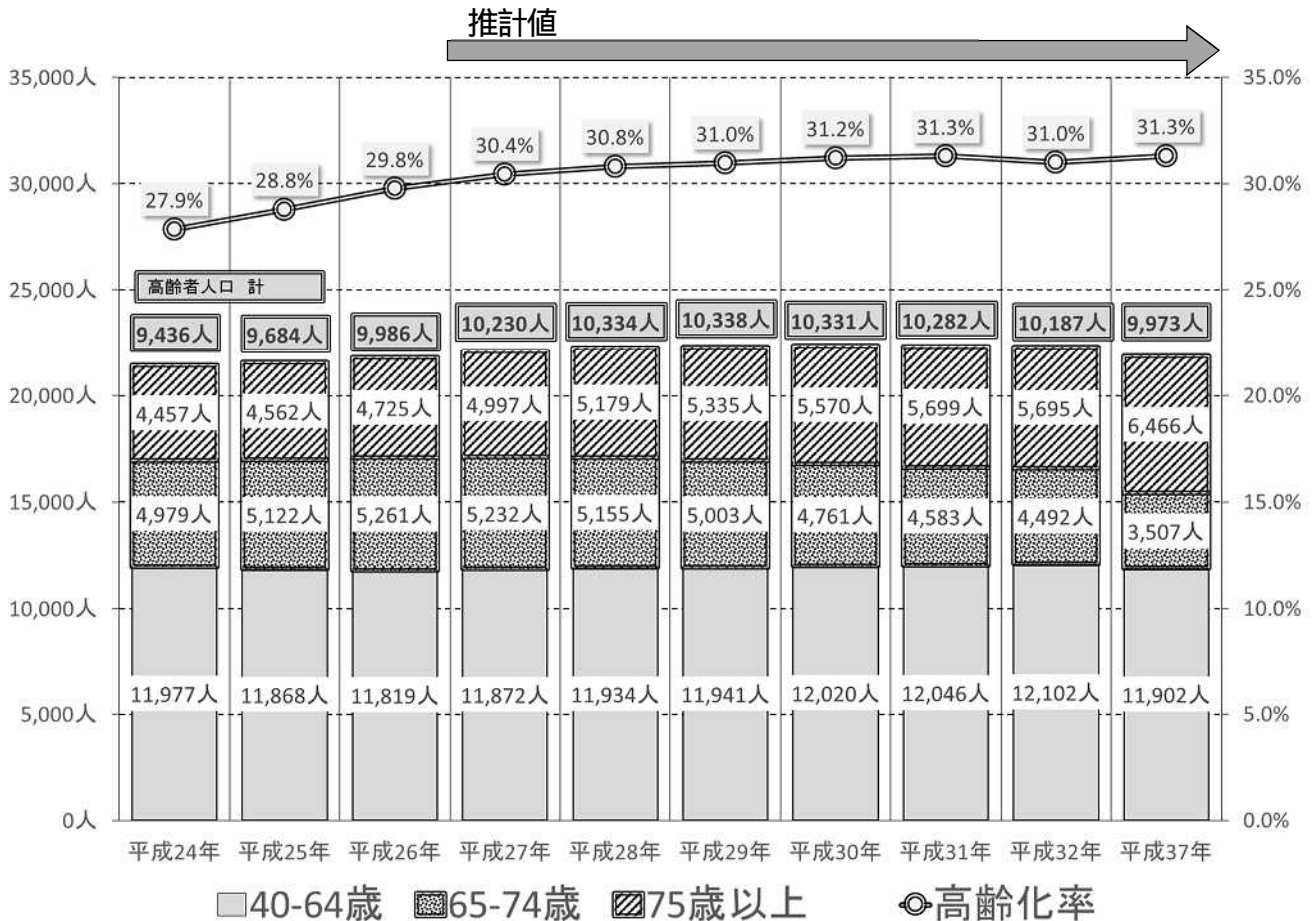
---





# 1 高齢者数等の推移

## (1) 高齢者人口等の推移及び推計



住民基本台帳 各年 10月1日  
 人口推計はコーホート変化率法により、男女1歳階級別に推計しています。  
 推計値については小数点第1位を四捨五入して表示しているため、見た目の数字の合算が表示されている合算値と一致しない場合があります。  
 高齢者福祉計画・介護保険事業計画に使用する高齢者数は、直近の数値を用いて1年ごと、1歳刻みで集計し、独自に推計しております。

高齢者数の推移を見ると、平成24年～平成26年にかけてやや増加傾向にあり、平成27年～29年も増加するものと試算されています。

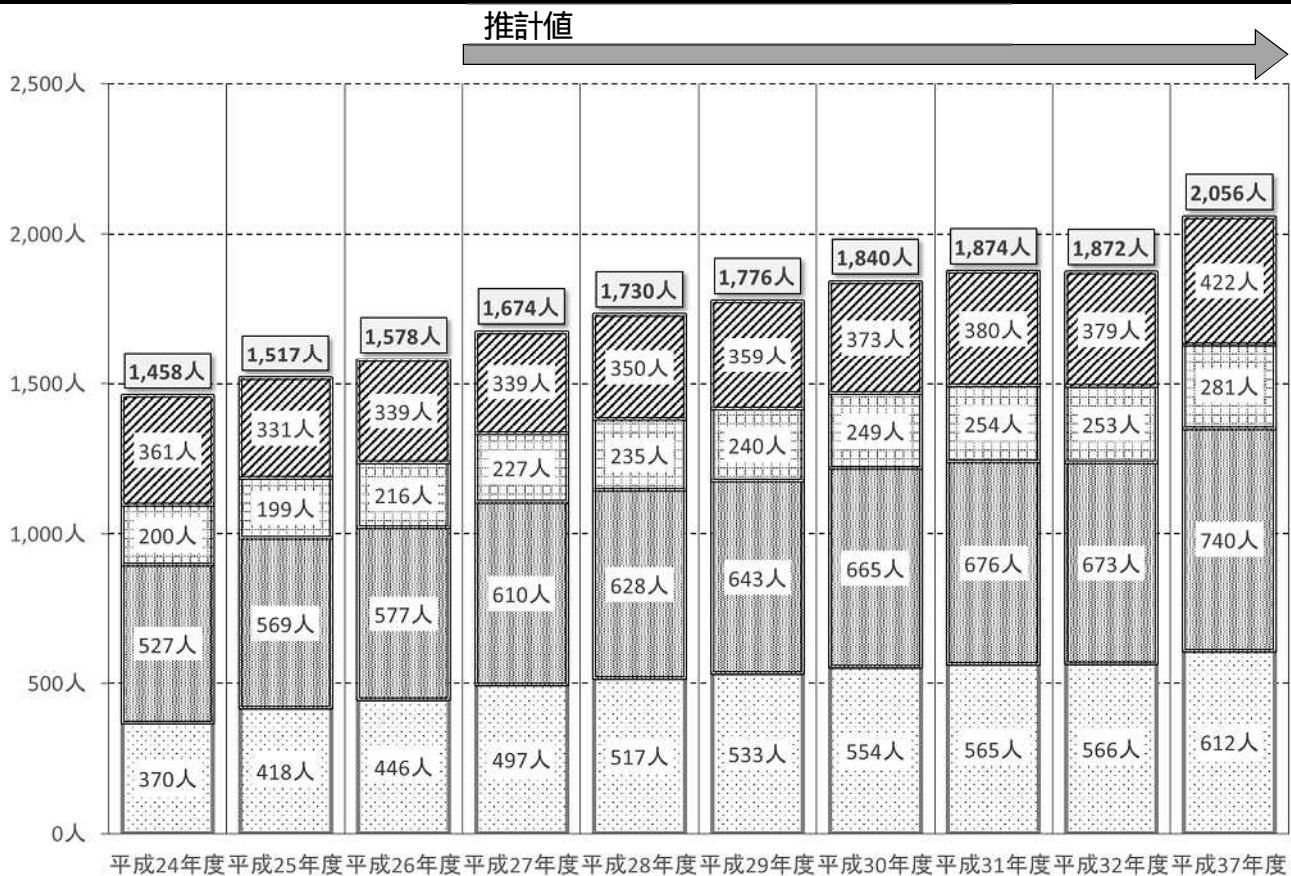
しかし、増加数は鈍化し、平成30年には平成29年よりも高齢者人口は減少して10,331人、平成37年には9,973人と平成26年とほぼ同じ水準になるものと想定されています。

65-74歳の前期高齢者と、75歳以上の後期高齢者について見ると、前期高齢者は減少傾向にあるのに対して、後期高齢者は増加傾向に推移するものと想定されます。

40-64歳人口は、平成24年～平成26年にかけてやや減少傾向にありますが、平成27年以降はわずかながら増加に転じるものと試算されています。

しかし、増加の幅は大きなものではなく、やがて減少に転じるものと想定され、平成37年には11,902人になるものと推計されます。

## (2) 要支援・要介護認定者数の推移及び推計



要支援1・2
  要介護1・2
  要介護3
  要介護4・5

平成24～26年度は月報(10月分)のデータを使用、平成27年度以降は推計値

直近5年間の前期高齢者、後期高齢者、第2号被保険者数に占める認定者の割合の平均値を算出し、平成27年以降、各層に占める認定者の割合を一定と仮定して、推計人口に乘じることで認定者数の推計を行っています。

推計値については小数点第1位を四捨五入して表示しているため、見た目の数字の合算が表示されている合算値と一致しない場合があります。

要支援・要介護認定者数の推移を見ると、認定者数は増加していくものと試算されており、平成29年度は1,776人、平成32年度は1,872人、平成37年度には2,056人と2千人を超えるものと思われます。

要支援・要介護認定者数に占める要介護度別の割合に大きな変化は見られず、要介護1・2を中心として比較的軽度の方の割合が多い状況が続いていくものと想定されます。

	要支援1・2	要介護1・2	要介護3	要介護4・5	合計数
平成27年度	497人 (29.7%)	610人 (36.4%)	227人 (13.6%)	339人 (20.3%)	1,674人
平成29年度	533人 (30.0%)	643人 (36.2%)	240人 (13.5%)	359人 (20.2%)	1,776人
平成37年度	612人 (29.8%)	740人 (36.0%)	281人 (13.7%)	422人 (20.5%)	2,056人

### (3) 要支援・要介護認定者数の前回計画値との実績値との比較

			平成24年度	平成25年度	平成26年度
要支援・要介護等認定者計	実績		1,458人	1,517人	1,578人
	計画		1,378人	1,432人	1,476人
	計画との差 (実績 - 計画)		80人	85人	102人
介護度別	要支援 1	実績	213人	256人	274人
		計画	198人	208人	215人
		計画との差 (実績 - 計画)	15人	48人	59人
	要支援 2	実績	157人	162人	172人
		計画	141人	150人	159人
		計画との差 (実績 - 計画)	16人	12人	13人
	要介護 1	実績	302人	347人	328人
		計画	292人	309人	323人
		計画との差 (実績 - 計画)	10人	38人	5人
	要介護 2	実績	225人	222人	249人
		計画	218人	223人	226人
		計画との差 (実績 - 計画)	7人	-1人	23人
	要介護 3	実績	200人	199人	216人
		計画	214人	222人	229人
		計画との差 (実績 - 計画)	-14人	-23人	-13人
	要介護 4	実績	176人	152人	178人
		計画	151人	150人	149人
		計画との差 (実績 - 計画)	25人	2人	29人
	要介護 5	実績	185人	179人	161人
		計画	164人	170人	175人
		計画との差 (実績 - 計画)	21人	9人	-14人

平成 24 年～26 年度の認定者数について、第 5 期計画における計画値との差異を検証すると、平成 24・25 年度は計画よりも実績は 80 人程度上回っていますが、平成 26 年度には計画値と実績の差は 102 人となっています。

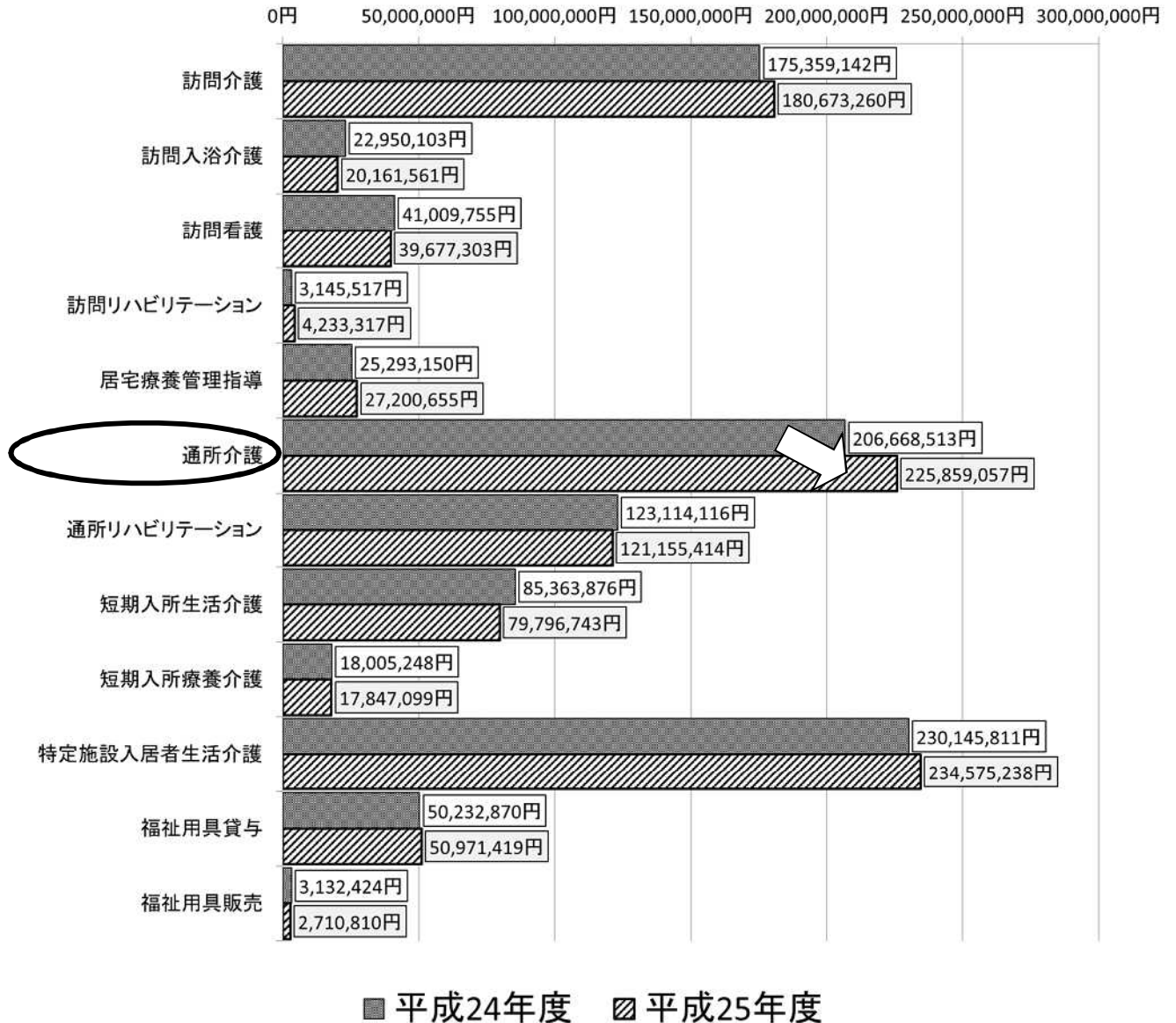
介護度別に見ると、要支援 1 は年々実績が計画値を上回り、平成 26 年度には 59 人計画を上回る水準となっています。

反対に、要介護 3 は平成 24 年～26 年度まで実績が計画値を下回っています。

## 2 給付費の推移から見た介護保険サービスの利用状況

### (1) 介護給付サービスの利用状況

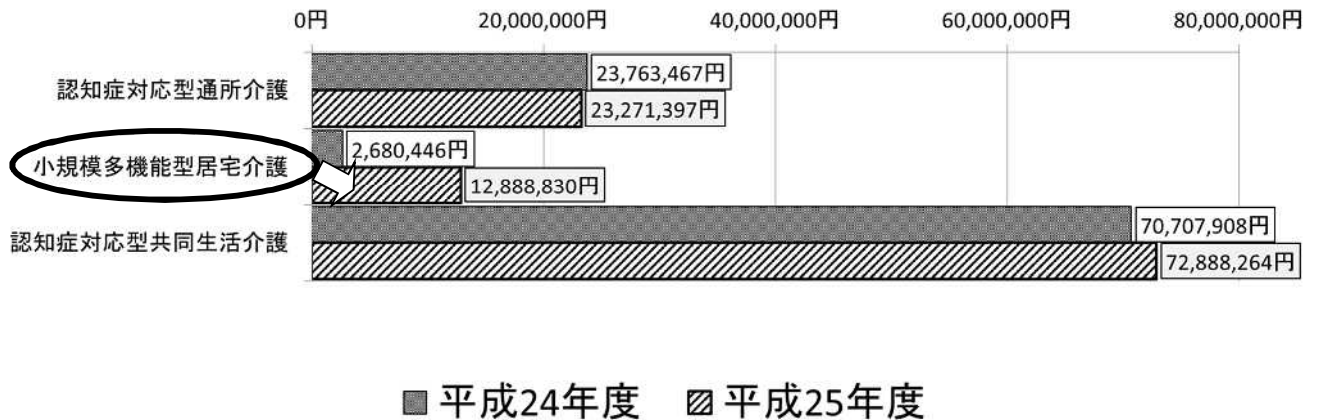
#### 1) 居宅サービス



介護給付サービスのうち、居宅サービスについて給付費の推移を見ると、多くのサービスは平成24～25年度にかけて大きな変化はありませんでしたが、通所介護では給付費がやや増大しています。

通所介護の利用がやや増大しています。

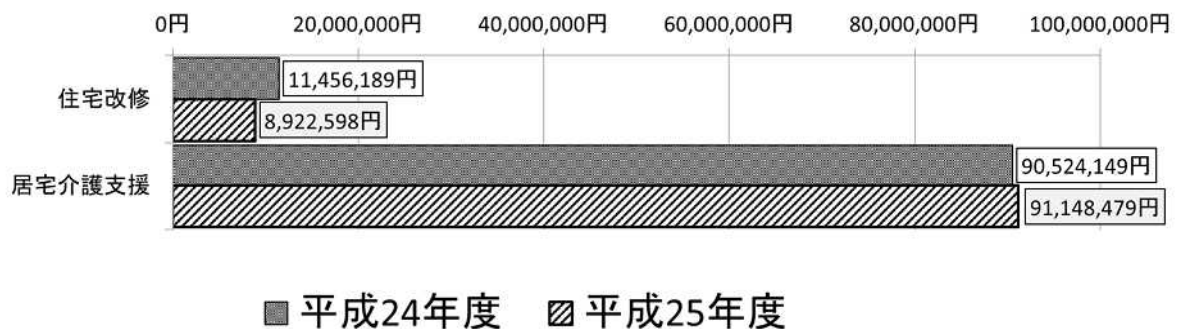
## 2 地域密着型サービス



介護給付サービスのうち、地域密着型サービスについて給付費の推移を見ると、平成25年6月に1事業所開設された影響で、小規模多機能型居宅介護の給付費は大きく増大しています。

小規模多機能型居宅介護の利用が大きく伸びています。

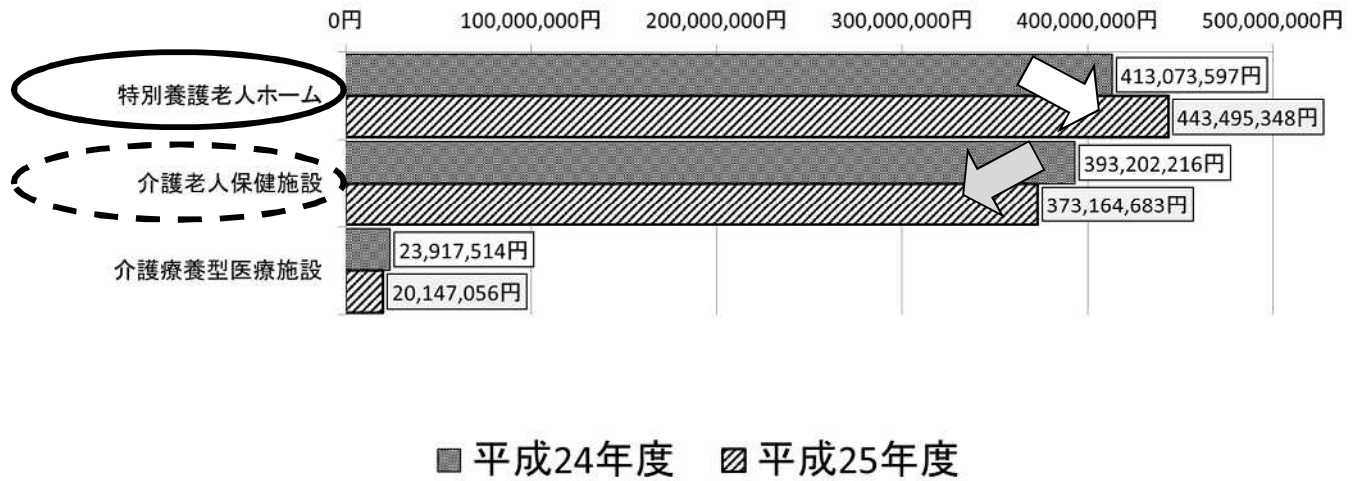
## 3)その他サービス



介護給付サービスのうち、その他サービスについて給付費の推移を見ると、住宅改修、居宅介護支援ともに平成24～25年度の給付費に大きな変化はありません。

住宅改修、居宅介護支援については利用状況に大きな変化は見られません。

## 4 施設サービス

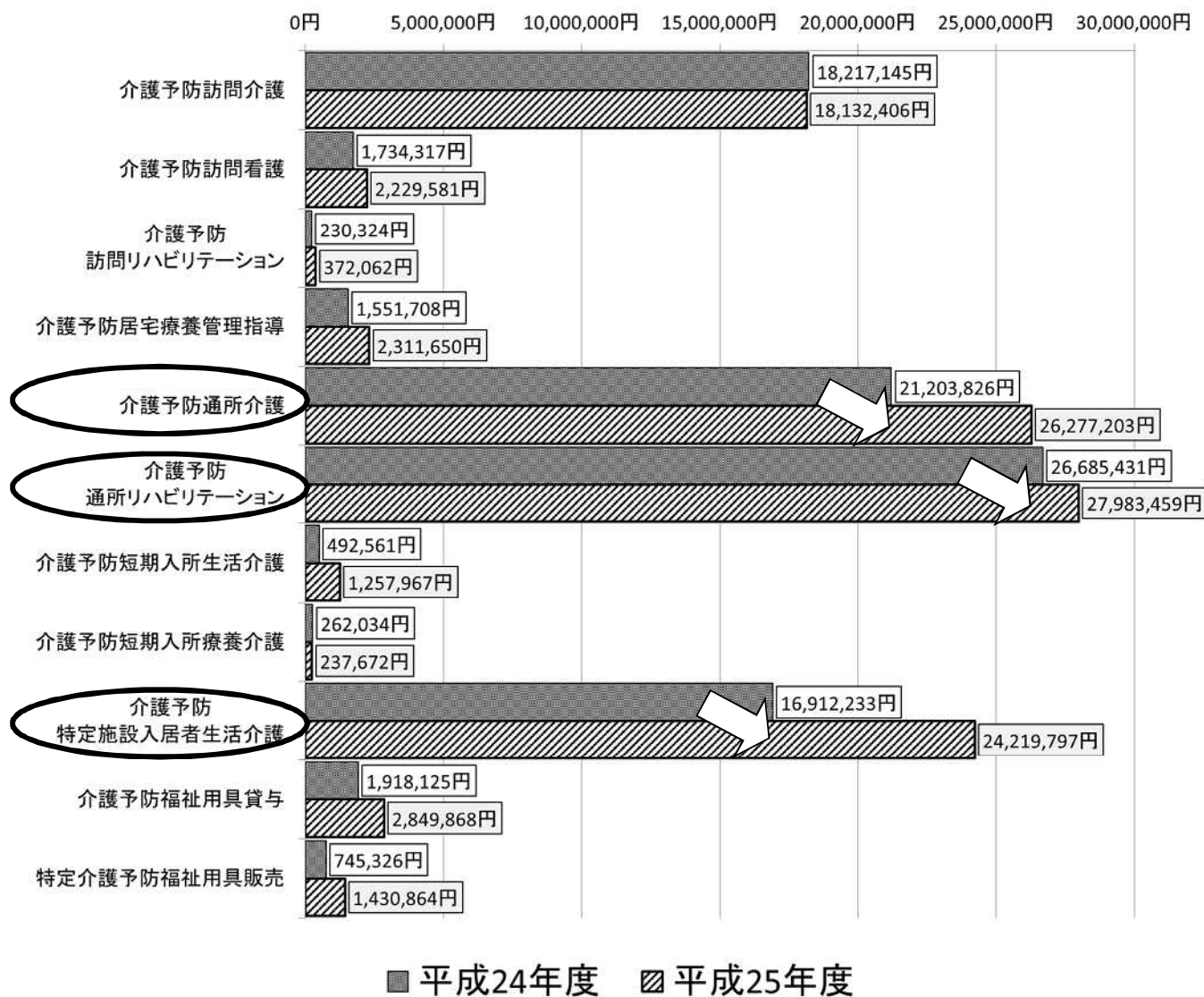


介護給付サービスのうち、施設サービスについて給付費の推移を見ると、特別養護老人ホームの利用はやや増加しているものの、介護老人保健施設については反対にやや減少しています。

介護給付の施設サービスについては、特別養護老人ホームの利用がやや増え、反対に介護老人保健施設の利用がやや減少しています。

## ( 2 ) 予防給付サービスの利用状況

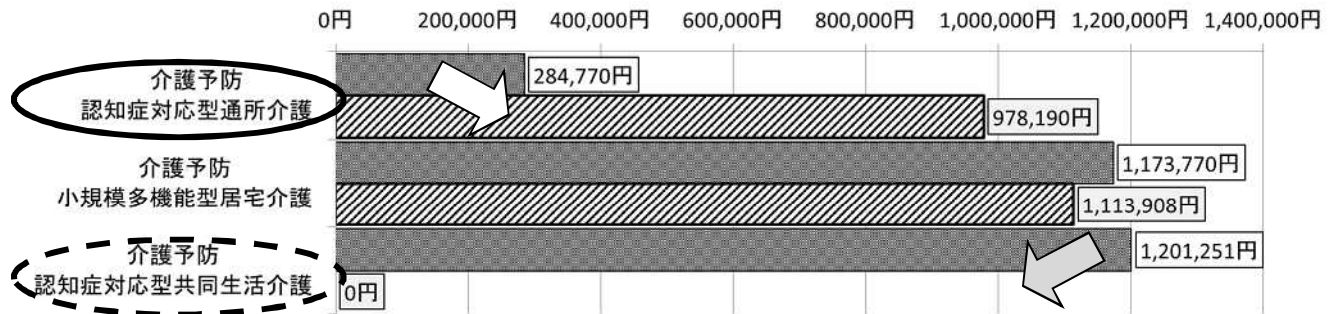
### 1) 介護予防サービス



予防給付サービスのうち、介護予防サービスについて給付費の推移を見ると、全般的に利用が増えていますが、特に介護予防特定施設入居者生活介護、介護予防通所介護の利用の伸びは大きく、ついで介護予防通所リハビリテーションの利用がやや増えています。

介護予防サービスの利用は全般的に増加傾向にあり、特に介護予防特定施設入居者生活介護と介護予防通所介護の利用が伸びています。

## 2) 地域密着型サービス

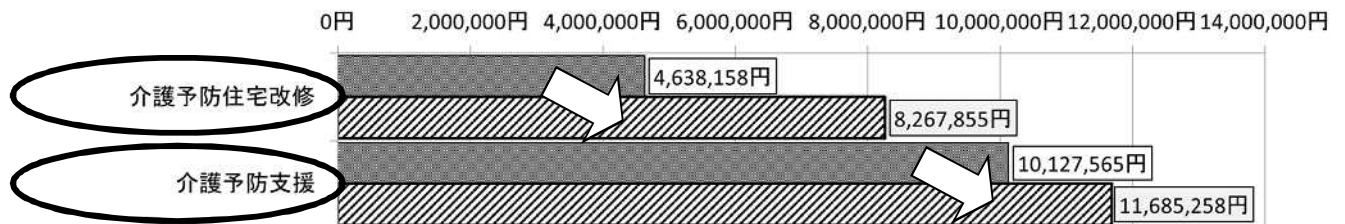


■ 平成24年度    ▨ 平成25年度

予防給付サービスのうち、地域密着型サービスについて給付費の推移を見ると、介護予防認知症対応型共同生活介護の利用が平成 25 年度にかけて激減していますが、反対に介護予防認知症対応型通所介護の利用は大幅に増大しています。

介護予防認知症対応型通所介護の利用が大きく伸びています。

## 3) その他サービス



■ 平成24年度    ▨ 平成25年度

予防給付サービスのうち、その他サービスについて給付費の推移を見ると、介護予防住宅改修、介護予防支援ともに利用が増大しています。

介護予防住宅改修、介護予防支援の利用は伸びており、特に介護予防住宅改修は平成 24 ~ 25 年度にかけて倍近くの伸びとなっています。



### 3 アンケート調査結果のポイント

#### (1) 調査の概要

##### 調査の目的

本調査は、第6期 葉山町高齢者福祉計画 介護保険事業計画策定の重要な基礎資料として、町民のニーズを測ることを目的とし実施しました。

##### 調査の設計

調査種別	調査対象	抽出方法	調査時期
高齢者	平成26年2月3日時点で、要支援・要介護認定を受けていない高齢者8,317名中1,518名を無作為抽出	無作為抽出	平成26年2月～3月
要介護認定者	平成26年2月3日時点で、要支援・要介護認定を受けている65歳以上高齢者1,443名	悉皆調査(全員)	平成26年2月～3月

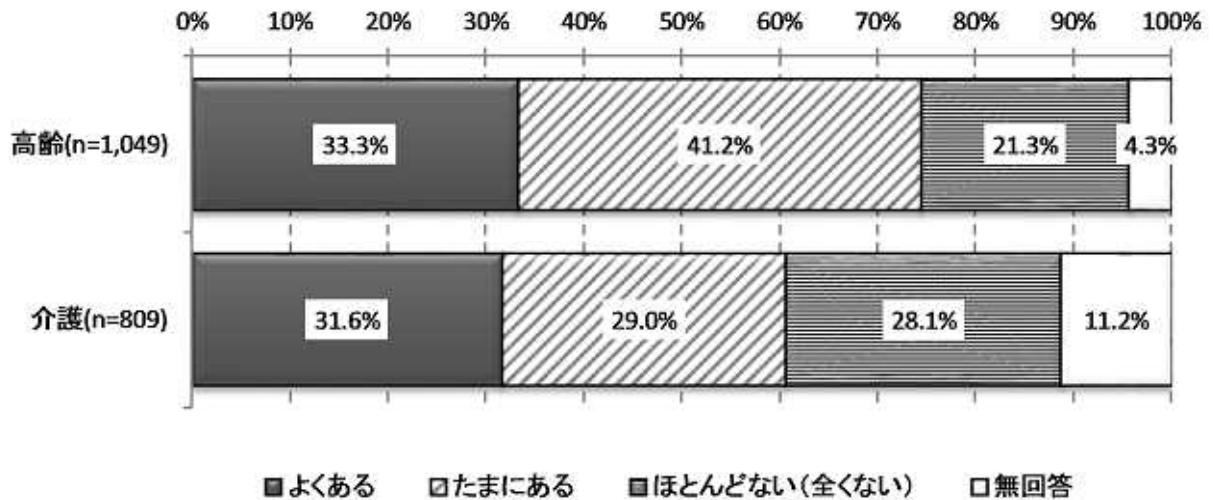
調査対象者に対して調査票を郵送配布し、郵送で回収することにより調査を行いました。

##### 回収結果

調査種別	配布数	有効回収数	有効回収率
高齢者	1,518票	1,049票	69.1%
要介護認定者	1,443票	809票	56.1%

## ( 2 ) 調査結果のポイント

### 1)日中ひとりになること

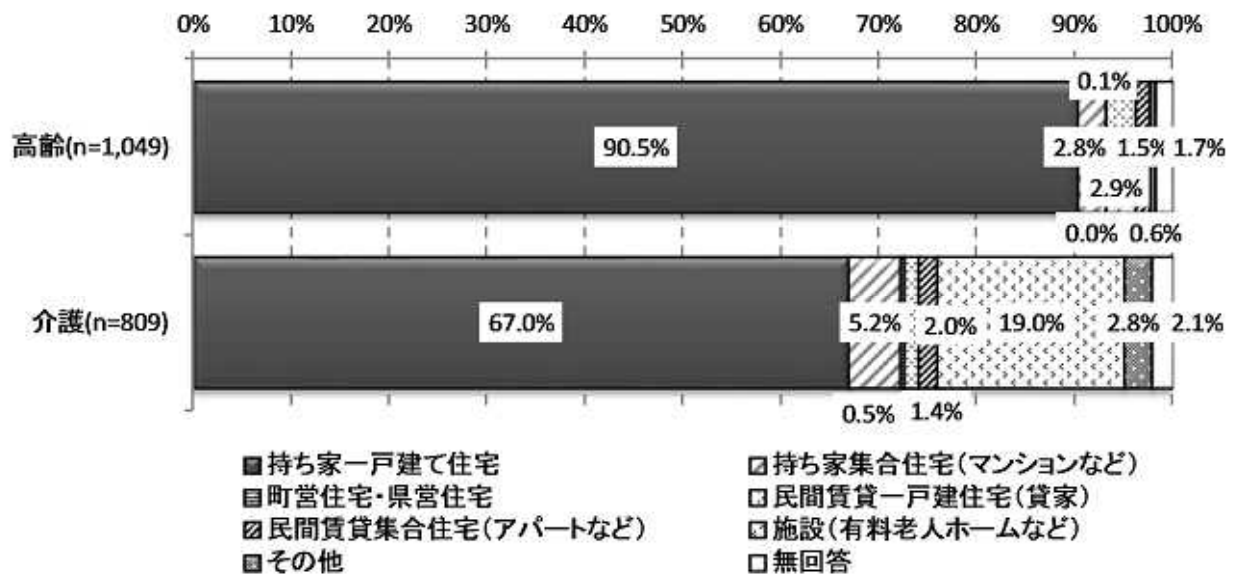


	n	よくある	たまにある	ほとんどない(全くない)	無回答
高齢	1,049人	349人	432人	223人	45人
介護	809人	256人	235人	227人	91人

日中ひとりになることが、高齢者、要介護認定者ともに「よくある」は3割となっています。

また、高齢者では「たまにある」が41.2%なのに対し、要介護認定者では29.0%、「ほとんどない(全くない)」が28.1%となっています。

## 2 現在の住まい

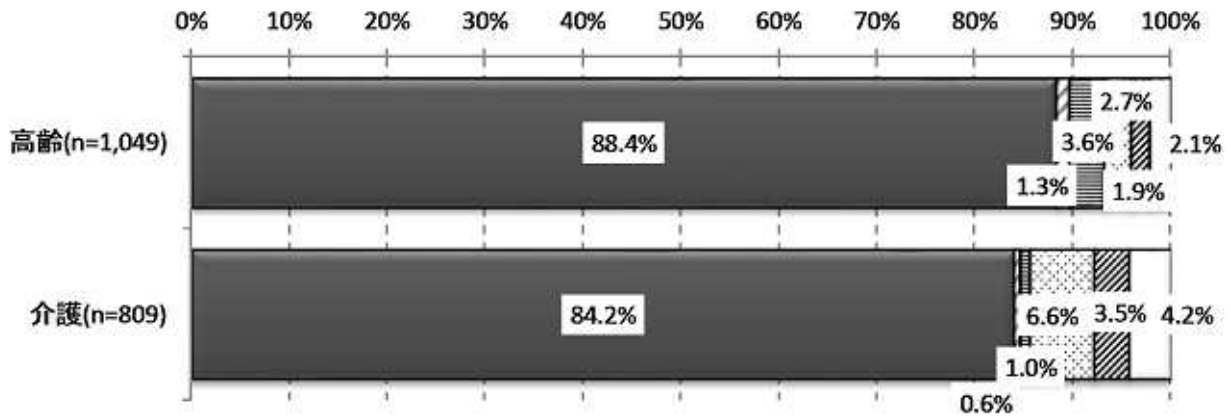


	n	持ち家一戸建て住宅	持ち家集合住宅(マンションなど)	町営住宅・県営住宅	民間賃貸一戸建住宅(貸家)	民間賃貸集合住宅(アパートなど)	施設(有料老人ホームなど)	その他	無回答
高齢	1,049人	949人	29人	1人	30人	16人	0人	6人	18人
介護	809人	542人	42人	4人	11人	16人	154人	23人	17人

現在の住まいは、「持ち家一戸建て住宅」が高齢者では 90.5%、要介護認定者でも 67.0%と多数を占めています。

要介護認定者では「施設(有料老人ホームなど)」も 19.0%みられます。

### 3 今後の住居希望

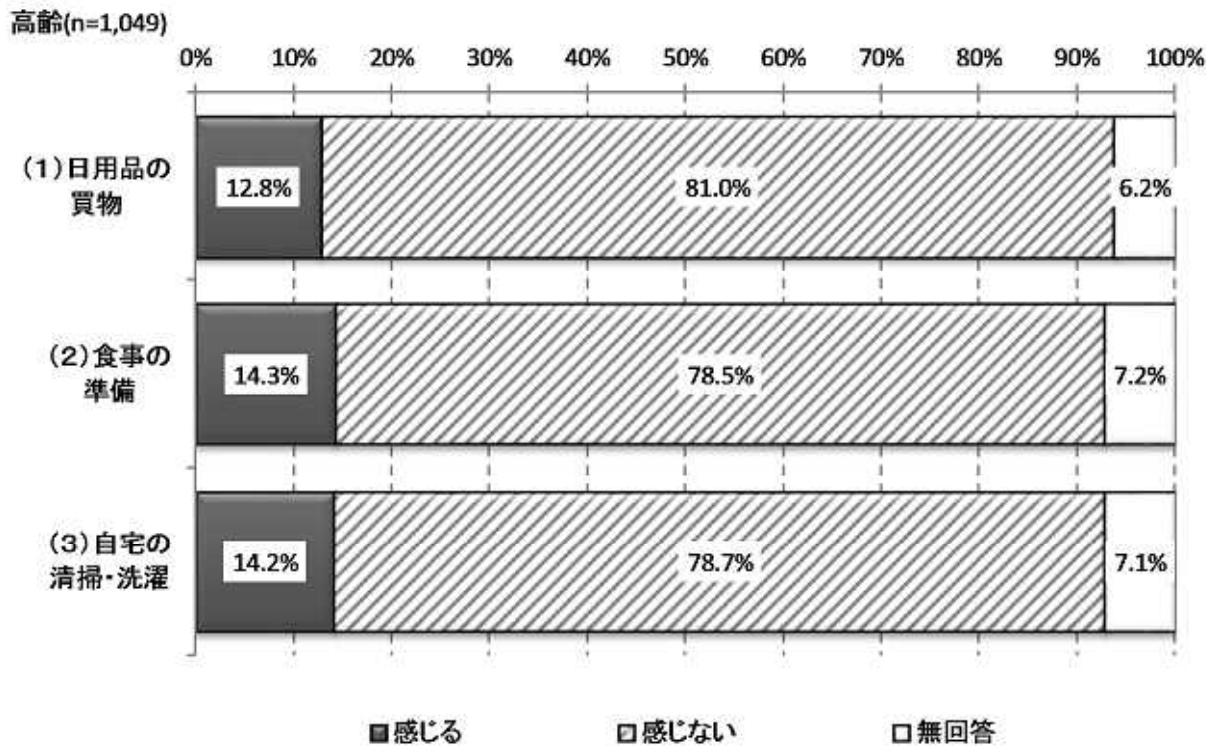


- このまま現在の場所(自宅あるいは施設)に住み続けたい
- 別居している家族のところに移りたい
- 持ち家を手放し、便利なマンション等に引っ越したい
- 有料老人ホームなど介護施設に入居したい
- その他
- 無回答

	n	このまま現在の場所(自宅あるいは施設)に住み続けたい	別居している家族のところに移りたい	持ち家を手放し、便利なマンション等に引っ越したい	有料老人ホームなど介護施設に入居したい	その他	無回答
高齢	1,049人	927人	14人	38人	28人	20人	22人
介護	809人	681人	5人	8人	53人	28人	34人

高齢者、要介護認定者ともに「このまま現在の場所(自宅あるいは施設)に住み続けたい」という、現状の住いのまま暮らしたいという回答が8割以上を占めています。

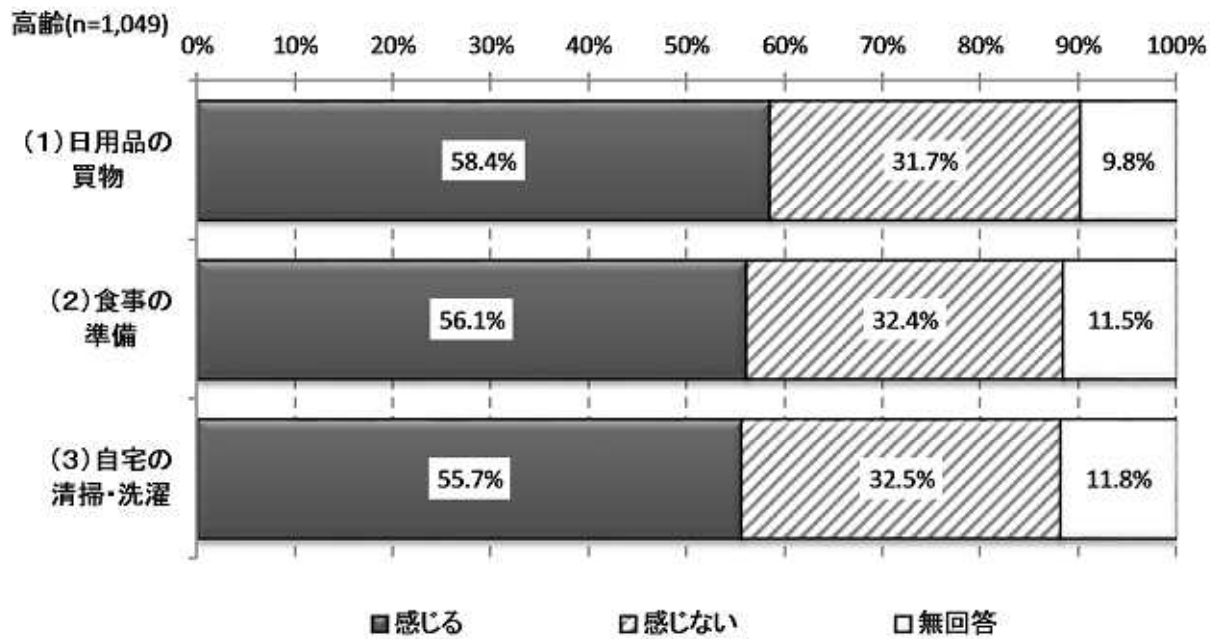
#### 4)日用品の買い物、食事の準備等についての現在の負担感



	感じる	感じない	無回答
(1)日用品の買物	134人	850人	65人
(2)食事の準備	150人	823人	76人
(3)自宅の清掃・洗濯	149人	826人	74人

日用品の買物、食事の準備、自宅の清掃・洗濯ともに約8割の方が現在負担感を「感じない」とし、負担を「感じる」との回答は1割強となっています。

## 5)日用品の買い物、食事の準備等についての将来の不安感

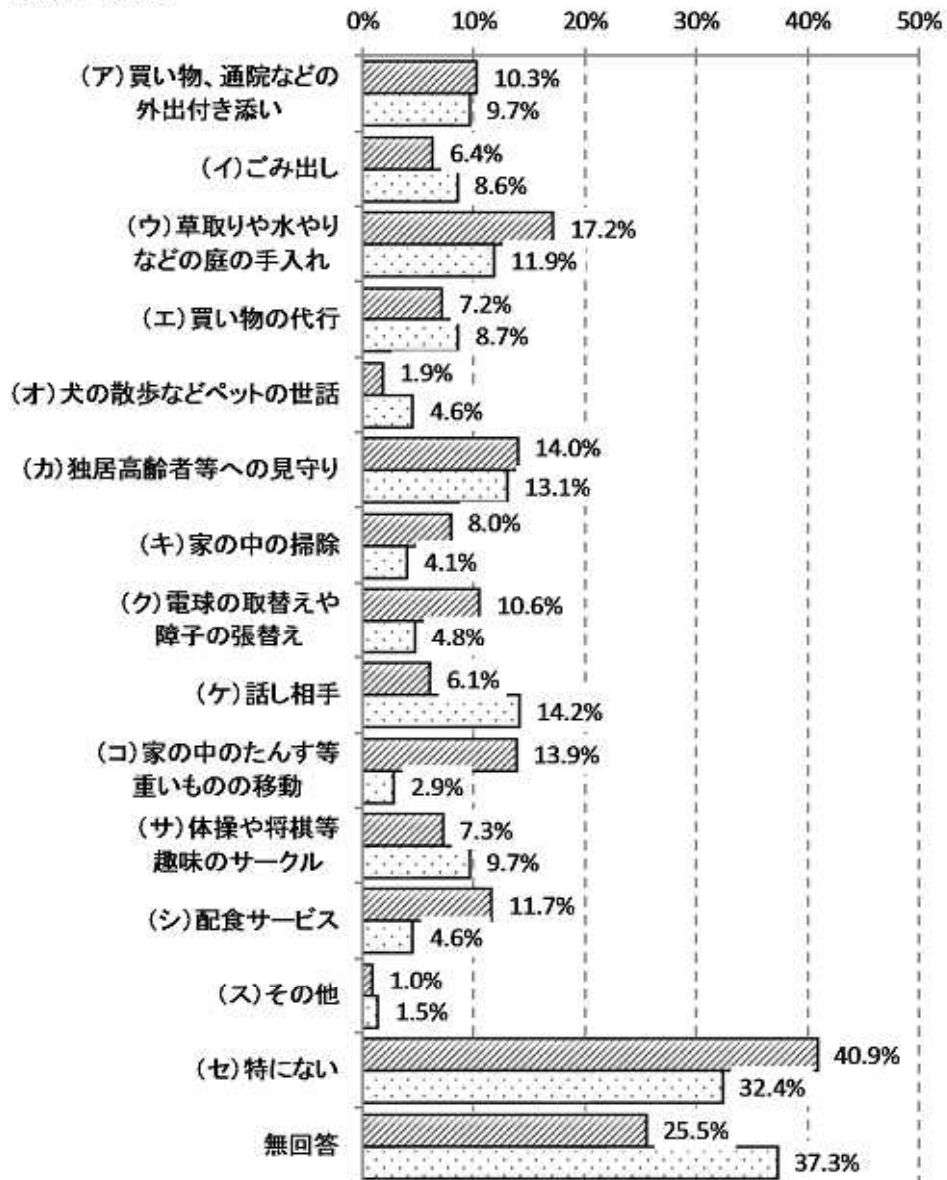


	感じる	感じない	無回答
(1)日用品の買物	613人	333人	103人
(2)食事の準備	588人	340人	121人
(3)自宅の清掃・洗濯	584人	341人	124人

日用品の買物、食事の準備、自宅の清掃・洗濯についての将来の不安については、6割弱が「感じる」と回答しています。

## 6 地域ボランティアについて

高齢(n=1,049)



▨ ボランティア団体・サークル活動にして欲しいサービス

▤ ボランティア団体・サークル活動として参加してもよいサービス

高齢者(n=1,049人)

	買い物 通院な どの外 出付き 添い	ごみ 出し	草取り や水や りなど の庭の 手入れ	買い物 の代行	犬の散 歩など ペット の世話	独居高 齢者等 への見 守り	家の中 の掃除	電球の 取替え や障子 の張替 え
して欲しいサービス	108人	67人	180人	76人	20人	147人	84人	111人
参加してもよいサービス	102人	90人	125人	91人	48人	137人	43人	50人

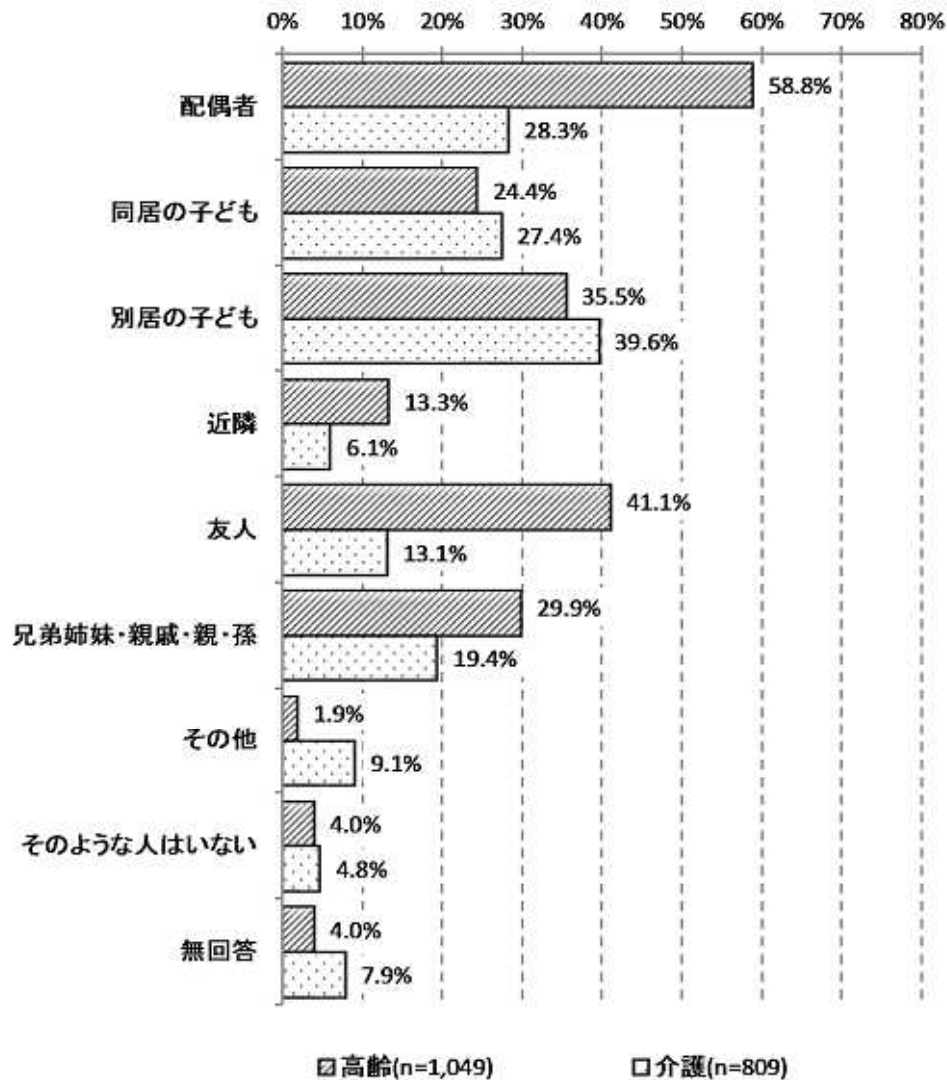
	話し 相手	家の中の たんす等 重いも のの 移動	体操や将 棋等趣味 のサーク ル	配食サー ビス	その他	特に ない	無回答
して欲しいサービス	64人	146人	77人	123人	10人	429人	267人
参加してもよいサービス	149人	30人	102人	48人	16人	340人	391人

地域ボランティアにして欲しいサービス、参加してもよいサービスともに「特にな  
い」という回答が最も多くなっています。して欲しいサービスとしては、「草取りや  
水やりなどの庭の手入れ」、「独居高齢者等への見守り」などへの回答が多く、参加し  
てもよいという回答も同じくらいの割合を占めていますが、「家の中のたんす等重い  
ものの移動」、「配食サービス」などについては、して欲しいという回答に比べ参加し  
てもよいという回答の割合はかなり低いものとなっています。

また、「話し相手」については、して欲しいという回答はあまり高くないものの、  
反対に参加してもよいという回答の割合が高いものとなっています。



## 7) 心配事や愚痴を聞いてくれる人



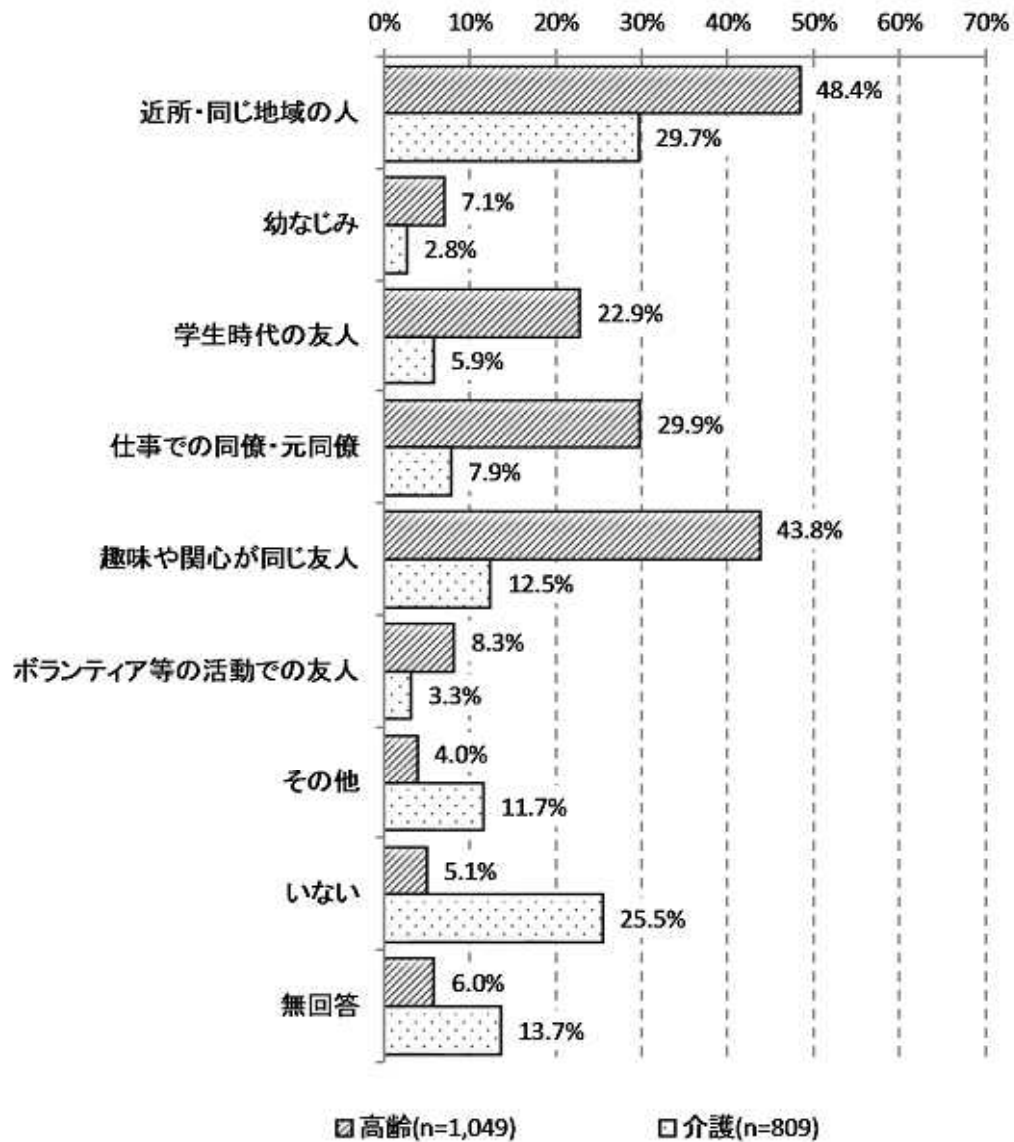
	n	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	近隣	友人	兄弟姉妹・親戚・親・孫	その他	そのような人はいない	無回答
高齢	1,049人	617人	256人	372人	139人	431人	314人	20人	42人	42人
介護	809人	229人	222人	320人	49人	106人	157人	74人	39人	64人

心配事や愚痴を聞いてくれる人については、高齢者では「配偶者」が約6割で最も多く、次いで「友人」「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が約3～4割となっています。

要介護認定者では、「別居の子ども」が4割で最も多く、次いで「配偶者」「同居の子ども」が続いています。

高齢者、要介護認定者ともに「そのような人はいない」との回答は少なくなっています。

## 8 よく会う友人 知人との関係

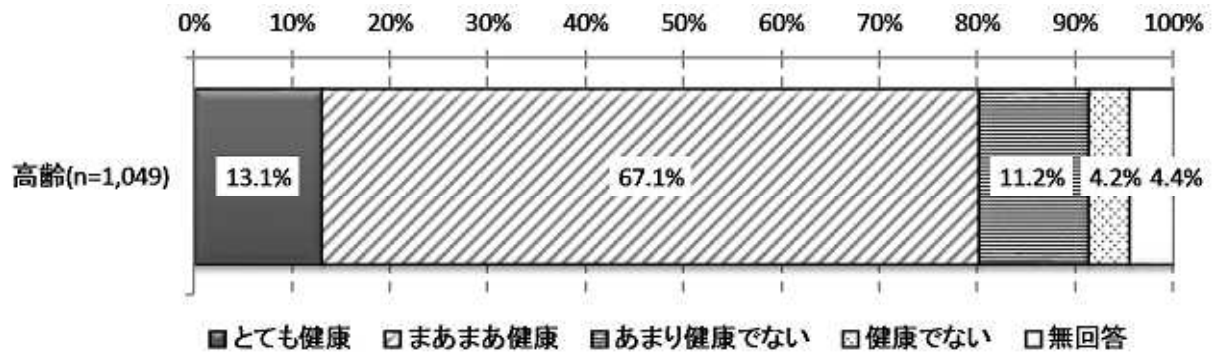


	n	近所・同じ地域の人	幼なじみ	学生時代の友人	仕事での同僚・元同僚	趣味や関心が同じ友人	ボランティア等の活動での友人	その他	いない	無回答
高齢	1,049人	508人	75人	240人	314人	459人	87人	42人	53人	63人
介護	809人	240人	23人	48人	64人	101人	27人	95人	206人	111人

よく会う友人・知人については、高齢者、要介護認定者ともに、「近所・同じ地域の人」、「趣味や関心が同じ友人」への回答が多くなっています。

要介護認定者では、よく会う友人・知人が「いない」という回答も1/4以上を占めています。

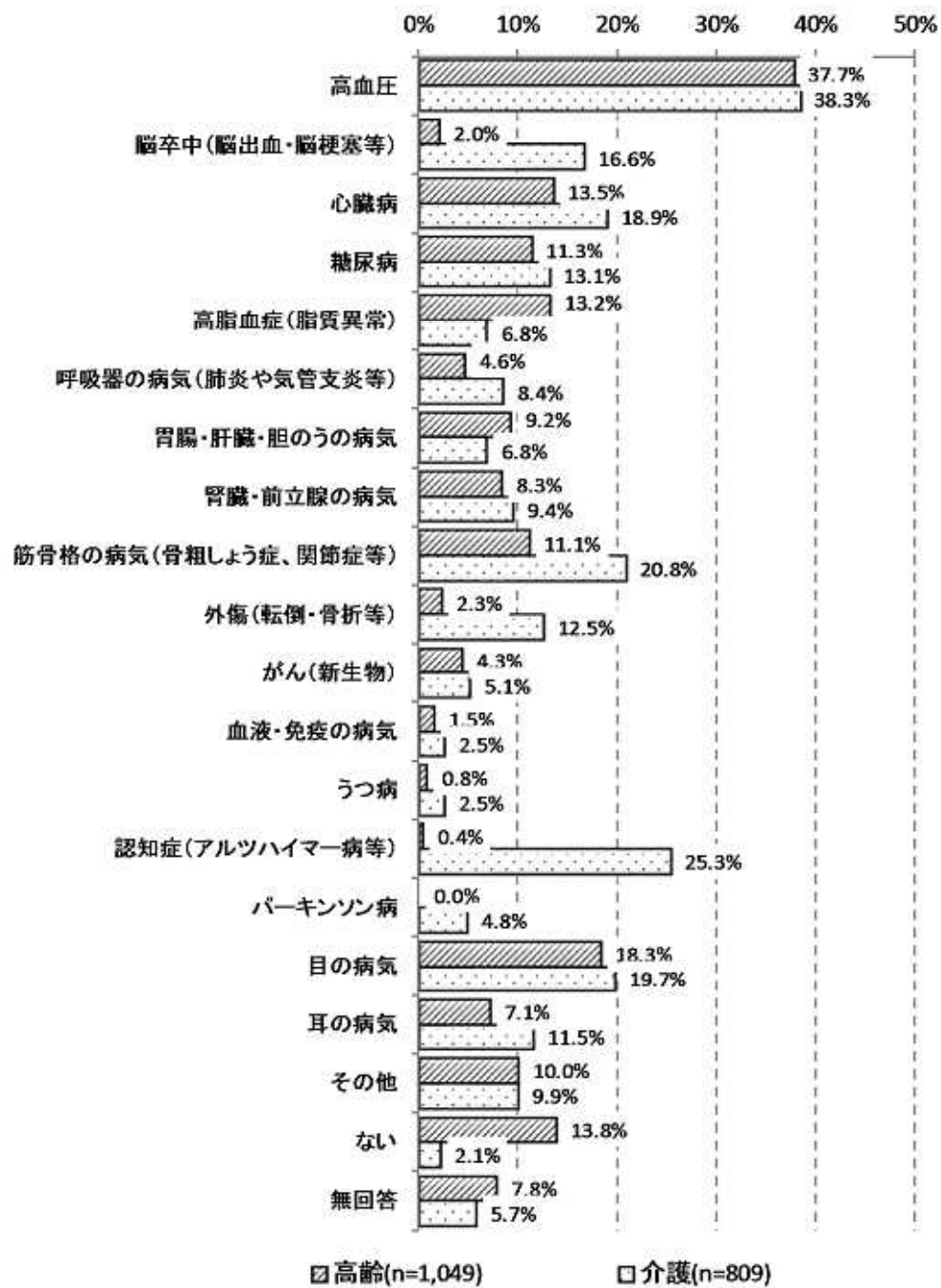
## 9)健康について



	n	とても健康	まあまあ健康	あまり健康でない	健康でない	無回答
高齡	1,049人	137人	704人	118人	44人	46人

「まあまあ健康」が67.1%と最も多く、「とても健康」を含めると80.2%の方が“健康”と回答しています。

## 10 現在治療中、または後遺症のある病気



高齢者(n=1,049人)、介護(n=809人)

	高血圧	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	心臓病	糖尿病	高脂血症(脂質異常)	呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)	外傷(転倒・骨折等)
高齢	395人	21人	142人	119人	138人	48人	97人	87人	116人	24人
介護	310人	134人	153人	106人	55人	68人	55人	76人	168人	101人

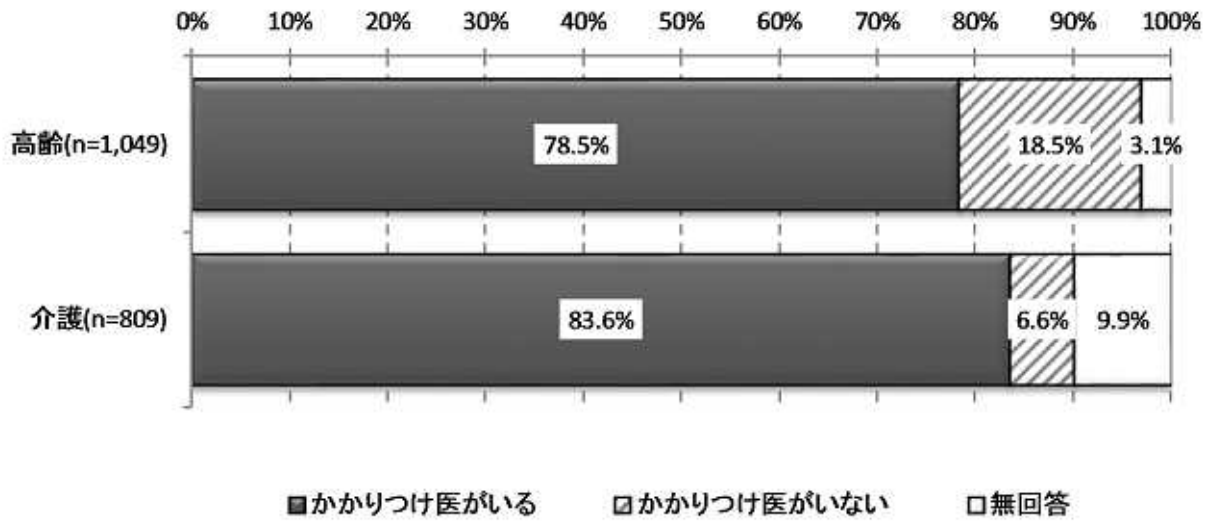
	がん(新生物)	血液・免疫の病気	うつ病	認知症(アルツハイマー病等)	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	ない	無回答
高齢	45人	16人	8人	4人	0人	192人	74人	105人	145人	82人
介護	41人	20人	20人	205人	39人	159人	93人	80人	17人	46人

「高血圧」「心臓病」「糖尿病」「高脂血症(脂質異常)」といった生活習慣病の割合が多くなっています。

この他、要介護認定者では「認知症(アルツハイマー病等)」が25.3%と4人に1人の割合となっています。また、生活習慣病の積み重ねでなる「脳卒中」も多く、かつ「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」も多くなっています。

高齢者、要介護認定者ともに「目の病気」も約2割みられます。

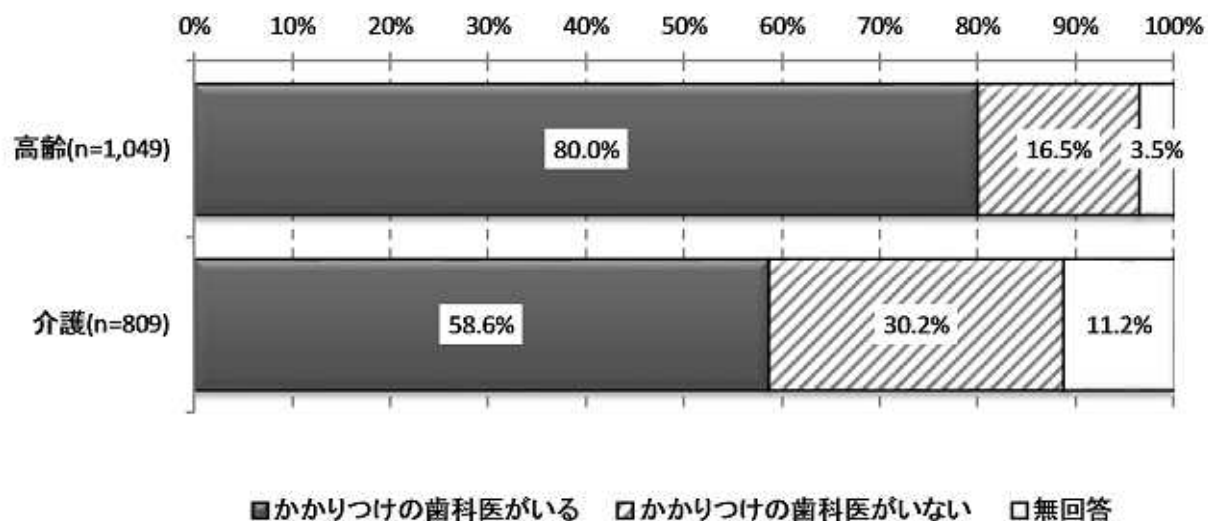
## 11) かかりつけ医の有無



	n	かかりつけ医 がいる	かかりつけ医 がない	無回答
高齢	1,049人	823人	194人	32人
介護	809人	676人	53人	80人

高齢者、要介護認定者とも8割前後が、「かかりつけ医がいる」としています。

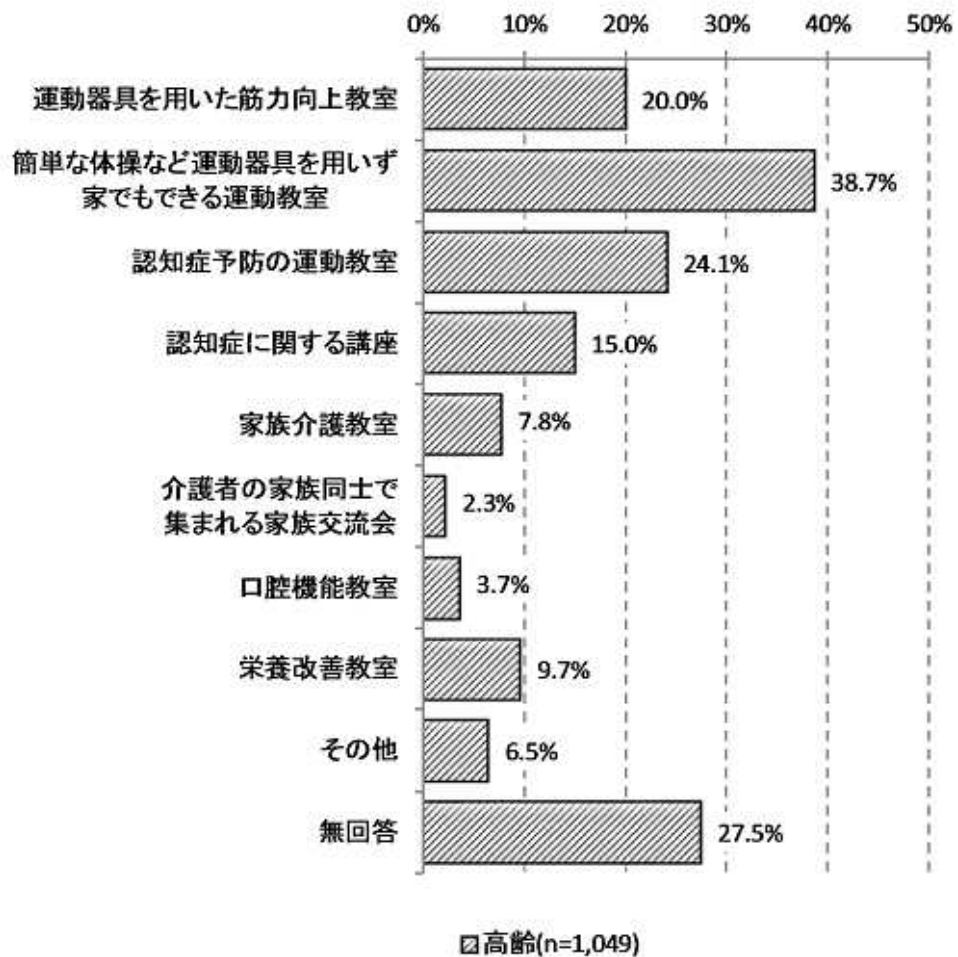
## 12) かかりつけ歯科医の有無



	n	かかりつけの 歯科医がいる	かかりつけの 歯科医がない	無回答
高齢	1,049人	839人	173人	37人
介護	809人	474人	244人	91人

高齢者では80.0%が「かかりつけの歯科医がいる」としていますが、要介護認定者では58.6%にとどまり、30.2%が「かかりつけの歯科医がない」としています。

### 13 介護予防のために受けてみたいサービス



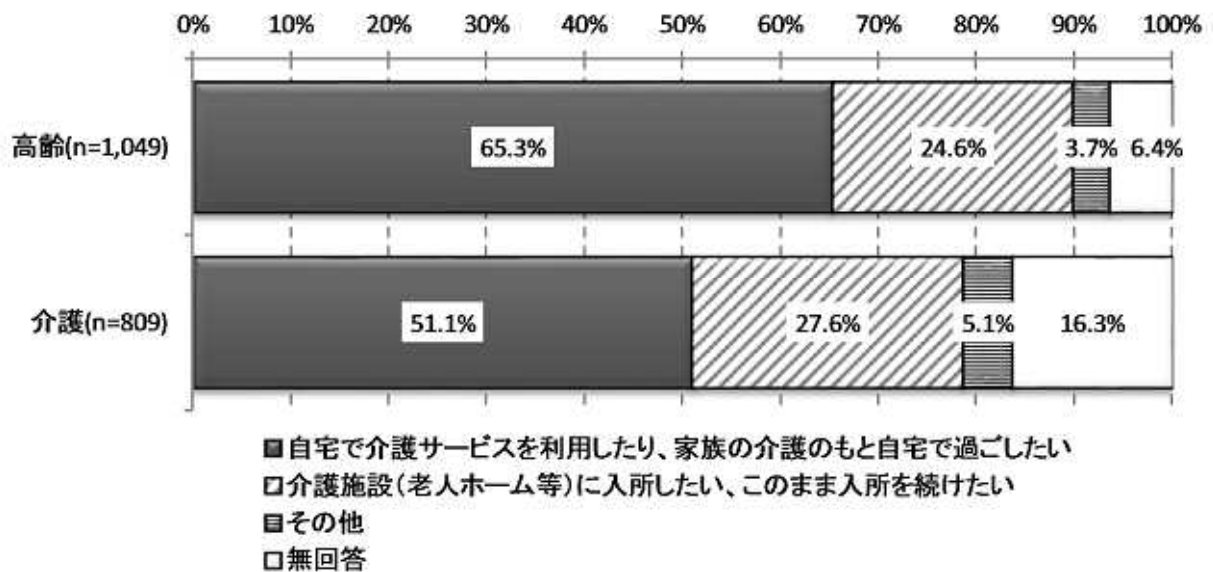
	n	運動器具を用いた筋力向上教室	簡単な体操など運動器具を用いず家でもできる運動教室	認知症予防の運動教室	認知症に関する講座	家族介護教室	介護者の家族同士で集まれる家族交流会	口腔機能教室	栄養改善教室	その他	無回答
高齢	1,049人	210人	406人	253人	157人	82人	24人	39人	102人	68人	288人

介護予防のために受けてみたいサービスとしては、「運動器具を用いた筋力向上教室」と「簡単な体操など運動器具を用いず家でもできる運動教室」を合わせた 58.7% が“運動教室”を希望しています。

なお、“認知症教室”については、講座より運動教室の希望が多くなっています。



## 14) 将来介護が必要となった場合の希望

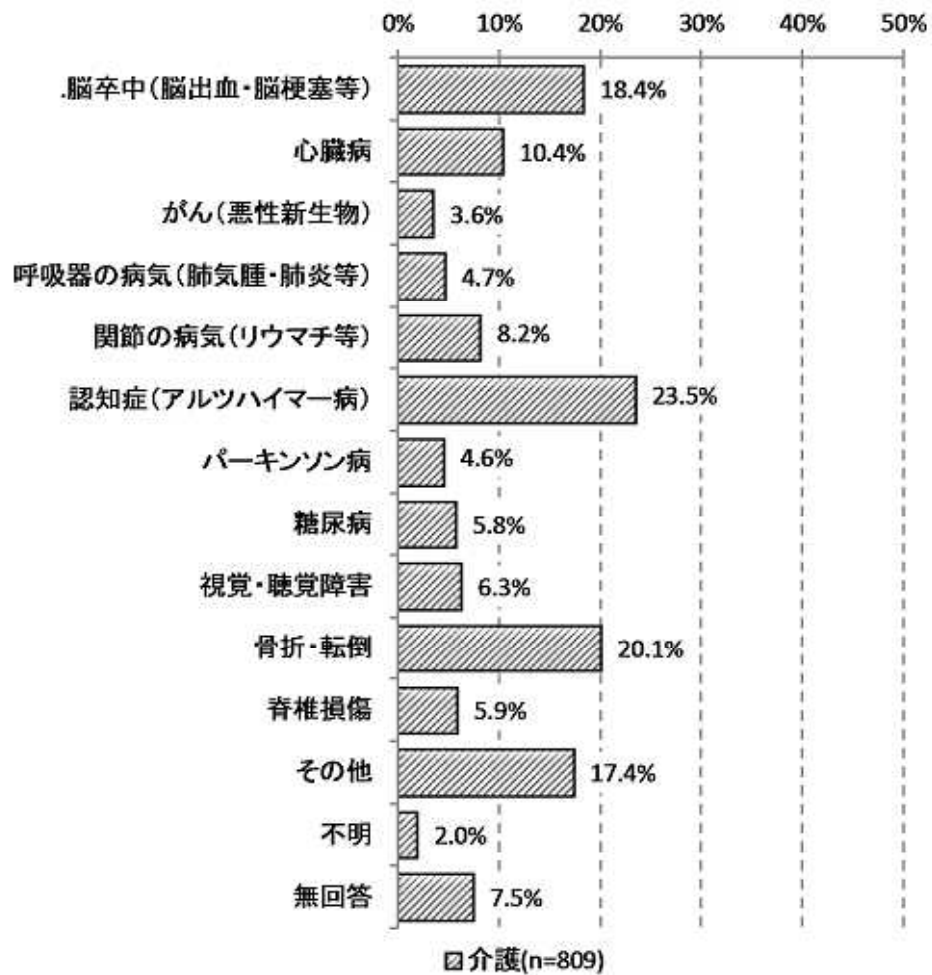


	n	自宅で介護サービスを利用したり、家族の介護のもと自宅で過ごしたい	介護施設(老人ホーム等)に入所したい、このまま入所を続けたい	その他	無回答
高齢	1,049人	685人	258人	39人	67人
介護	809人	413人	223人	41人	132人

高齢者では、「自宅で介護サービスを利用したり、家族の介護のもと自宅で過ごしたい」65.3%、「介護施設(老人ホーム等)に入所したい、このまま入所を続けたい」が24.6%となっています。

また、要介護認定者でも、将来介護が必要となった場合は、「自宅で介護サービスを利用したり、家族の介護のもと自宅で過ごしたい」51.1%、「介護施設(老人ホーム等)に入所したい、このまま入所を続けたい」が27.6%となっています。

## 15) 介護認定が必要になった主な原因



	n	脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	心臓病	がん(悪性新生物)	呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)	関節の病気(リウマチ等)	認知症(アルツハイマー病)	パーキンソン病
介護	809人	149人	84人	29人	38人	66人	190人	37人

	n	糖尿病	視覚・聴覚障害	骨折・転倒	脊椎損傷	その他	不明	無回答
介護	809人	47人	51人	163人	48人	141人	16人	61人

介護認定が必要になった主な原因については、「認知症(アルツハイマー病)」「骨折・転倒」「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」が約2割ずつとなっています。

---

---

## 第3章

### 基本理念と基本目標

---

---



## 1 基本理念

年齢を重ねても幸せな笑顔で過ごせる町、また、地域での支え合いを大切にす  
るぬくもりのある町とするため、「お互いに支え合い、いきいきと健康に過ごせる  
まち はやま」を基本理念として事業を遂行していきます。

**お互いに支え合い、いきいきと健康に過ごせるまち はやま**

## 2 基本目標

基本理念に基づき、次の4つの目標を掲げ、施策の整理、検討、実施を図るも  
のとします。

**基本目標1：元気で健康な状態を維持する**

**基本目標2：地域でお互い助け合いながら暮らしていく**

**基本目標3：認知症になっても安心して暮らせるまちをつくる**

**基本目標4：年齢を重ね介護が必要な状態となっても、  
可能な限り、葉山町で暮らしていけるまちとする**

## 基本目標 1：元気で健康な状態を維持する

葉山町の特徴として、高齢化率は高いものの、要介護認定率は県内平均に比べ低く、また、町民アンケートの結果を見ても比較的元気で健康な高齢者が多いことが挙げられます。

これからも元気で健康な状態を維持できるよう、介護予防事業の充実、在宅医療・介護の連携、老人クラブやシルバー人材センター、ミニデイサービス、ふれあいいいききサロンなどの住民主体の活動支援を行ってまいります。

平成 26 年 1 月 1 日時点で神奈川県全体の平均高齢化率は 22.5% (葉山町は 29.8%) ですが、神奈川県全体の第 1 号被保険者に対する平均要介護認定率は 16.0% (葉山町は 15.1%) となっております。

## 基本目標 2：地域でお互い助け合いながら暮らしていく

町民アンケートの結果を見ると、地域とのかかわりについて、「心配事や愚痴を聞いてくれる人はいない」との回答は高齢者全体の 4.4% で最も低く、「よく会う友人・知人との関係」では、「近所・同じ地域の人」が高齢者全体の 40.3% と最も多くなっております。

しかしながら、地域では、制度の谷間にあって困難を抱えているケース、公的なサービスだけでは対応しきれないケース等が発生しています。

地域コミュニティの活力を更に発展させるべく、社会福祉協議会のはやま住民福祉センター、町内会・自治会、民生委員・児童委員との連携を密にまいります。

### 基本目標3：認知症になっても安心して暮らせるまちをつくる

葉山町の特徴として、平成26年10月1日時点の65歳以上高齢者に占める「認知症日常生活自立度」以上の方の割合は8.8%となっており、全国的な数値と比較すると低い状況にあります。

しかしながら、町民アンケートの結果を見ると、要介護認定が必要となる最も大きな原因は認知症（アルツハイマー病）となっていることから、認知症を正しく理解し、早期発見、早期治療へつなげられる体制づくりを行うため、かかりつけ医・かかりつけ歯科医を持つことの重要性を周知するとともに、地域ニーズを把握し医療と介護の連携促進につなげられるよう、地域包括支援センターの機能強化を図ってまいります。

「認知症日常生活自立度」とは、日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意すれば自立できる状態をいいます。

厚生労働省の発表では、全国の65歳以上高齢者に対する認知症日常生活自立度以上の方の割合は、平成22年で9.5%、平成37年で12.8%と推計されております。

### 基本目標4：年齢を重ね介護が必要な状態となっても、可能な限り、葉山町で暮らしていけるまちとする

町民アンケートによると高齢者全体の80.2%が「持ち家戸建て」に居住しており、また、高齢者全体の86.5%が「このまま現在の場所に住み続けたい」、59.1%が「自宅で介護サービスを利用したり、家族の介護のもと自宅で過ごしたい」と回答しています。

第6期には在宅で夜間も安心して過ごすことができるよう、夜間対応型訪問介護事業所を新たに整備するとともに、小規模多機能型居宅介護事業所、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所等、在宅介護サービスの充実、緊急通報システム、配食サービス、徘徊高齢者SOSネットワーク等の見守り活動の更なる普及、推進を図り、可能な限り自宅で住み続けられるように努めてまいります。

また、在宅での看取りが可能になるよう、訪問看護事業所の整備を目指します。

更に、重度の介護が必要になった場合に対応するため、地域密着型介護老人福祉施設（29床以下の特別養護老人ホーム）の整備を行います。

### 3 第5期計画期間中の実施状況及び第6期の目標

#### 基本目標1：元気で健康な状態を維持する

##### 【第5期の実施状況】

高齢者生きがいと健康づくり推進事業、高齢者元気はつらつ教室、筋力向上教室等各種介護予防事業を実施するとともに、短時間リハビリを中心とした通所介護事業所を整備してまいりました。

また、かかりつけ医、かかりつけ歯科医の重要性を周知するため、広報はやまに医師、歯科医師のインタビュー記事を中心とした特集記事を掲載しました。

老人クラブ、シルバー人材センター（旧 生きがい事業団）に対し、活動補助を行ってまいりました。

##### 【第6期の目標】

町民アンケートによると、運動教室に対する要望が強く、特に「簡単な体操など運動器具を用いず家でも出来る運動教室」への要望が38.7%と高かったことから、運動教室を拡充してまいります。

医療と介護の連携については、平成25年度に発足した逗子・葉山地区医療保健福祉対策協議会小委員会に引き続き参加し、医療と介護の連携が図れる環境づくりに努めてまいります。

また、老人クラブ、シルバー人材センターに対し、引き続き活動補助を行い、高齢者の生きがいづくりを促進してまいります。

逗子・葉山地区医療保健福祉対策協議会小委員会とは、地域医療対策に関する課題及び課題解決に向けた取り組みについて検討し、その結果を逗子・葉山地区医療保健福祉対策協議会へ報告する委員会です。



## 基本目標2：地域でお互い助け合いながら暮らしていく

### 【第5期の実施状況】

個別課題を通じて地域課題を抽出し、地域づくり・社会資源の開発や施策等の充実に目的として、医療、介護、そして住民が参加する地域ケア会議を開催してきました。

また、地域の状況を理解し支援するため、小地域福祉活動推進協議会にも参加してまいりました。

役場福祉課窓口で、「はやま市民活動ガイドブック」「葉山町の小地域福祉活動情報」を配架し、住民活動の周知に努めてまいりました。

### 【第6期の目標】

元気な高齢者等が支え手となり、お互いさまの地域づくりを行うため、引き続き小地域福祉活動推進連絡会に参加していくとともに、社会福祉協議会と連携し、生活支援コーディネーターを設置し、生活支援の担い手の養成・発掘等の地域資源の開発、ネットワーク化を目指していきます。

また、地域づくり・社会資源の開発や施策等の充実に目指し、地域ケア会議をより充実したものにしていきたいと思います。

介護予防通所介護、介護予防訪問介護については、社会福祉協議会、小地域福祉活動推進組織、町内会・自治会、NPO団体等と連携し、平成29年4月までに市町村独自事業である総合事業へ移行していきます。

## 基本目標3：認知症になっても安心して暮らせるまちをつくる

### 【第5期の実施状況】

広報はやまでの認知症特集記事の掲載、認知症サポーター養成講座、認知症講演会、認知症予防教室の開催を通して、認知症の理解を促進し、認知症施策の推進に努めてまいりました。

### 【第6期の目標】

認知症になる前から認知症について知り、早期発見・早期治療につなげていくことが重要な課題であるため、認知症施策の推進に努めてまいります。

そのために、認知症サポーター養成講座や認知症講演会、認知症予防教室の充実を図ってまいります。

また、認知症普及啓発パンフレットの作成など、認知症の理解を広めていき、認知症と思われる症状があったり、あるいは認知症による介護が必要となる前に、どのような医療・介護サービスを受ければ良いのかを示す認知症ケアパス<sup>1</sup>の作成を目指していきます。

更に、地域包括支援センターの機能を強化し、認知症初期集中支援チーム<sup>2</sup>、認知症地域支援推進員<sup>3</sup>の設置を目指していきます。

- 1 認知症ケアパスとは、地域ごとに認知症の状態に応じた適切なサービス提供の流れを指します。
- 2 認知症初期集中支援チームは、初期の段階で医療と介護との連携のもとに認知症の人や家族に対して個別の訪問を行い適切な支援を行います。
- 3 認知症地域支援推進員は、医療機関・介護サービス事業所や地域の支援機関をつなぐ連携支援や認知症の人やその家族を支援する相談事務等を行います。

## 基本目標4：年齢を重ね介護が必要な状態となっても、可能な限り、 葉山町で暮らしていけるまちとする

### 【第5期の実施状況】

小規模多機能型居宅介護事業所、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所の整備を行う等、在宅介護サービスの充実に努めてまいりました。

また、緊急通報システムの仕様を見直し、人感センサーや希望者には警備員による駆けつけを可能とするとともに、介護用品支給事業も対象者をこれまで要介護4以上だったものを要介護3以上とするなど、在宅介護、見守り事業の充実に努めてまいりました。

徘徊高齢者SOSネットワークについても、関係機関が一同に介する連絡会を開催した上で要綱改正をし、新たに葉山警察署、葉山町消防本部と連携することとし、現在、神奈川県からの広域依頼や葉山警察署からの夜間要請にも対応しております。

更に、地域包括支援センター、介護保険事業所と連携し、一体となって高齢者虐待対応に取り組むとともに、町内特別養護老人ホームに対し、町民の優先入所を要望し、改善に努めてまいりました。

### 【第6期の目標】

小規模多機能型居宅介護事業所、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所の普及・推進を図るなど、介護サービスの充実を図るとともに、在宅で夜間も安心して過ごすことができるよう、夜間対応型訪問介護事業所を新たに整備し、かつ、在宅での看取りを視野に、訪問看護事業所の整備を目指していきます。

また、緊急通報システムの更なる充実を図るとともに、配食サービス、徘徊高齢者SOSネットワークの普及促進に努めてまいります。

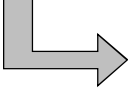
更に、介護度が重度になっても葉山町でお過ごしいただけるように、葉山町民しか入所できない地域密着型介護老人福祉施設(29人以下の特別養護老人ホーム)を整備するとともに、町内特別養護老人ホームに引き続き町民優先入所を要望することで特別養護老人ホーム入所待機者数を減らし、高齢者の安心を提供してまいります。

## 4 施策の体系

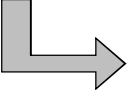
### 【基本理念】

お互いに支え合い、いきいきと健康に過ごせるまち はやま

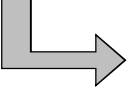
#### 基本目標 1：元気で健康な状態を維持する

- 
- 1 医療と介護の連携
  - 2 介護予防事業
  - 3 介護予防ケアマネジメント事業
  - 4 総合相談支援事業・権利擁護事業
  - 5 包括的・継続的マネジメント事業
  - 6 社会参加の促進
  - 7 就業の支援

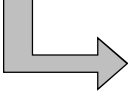
#### 基本目標 2：地域でお互い助け合いながら暮らしていく

- 
- 1 地域福祉活動への支援
  - 2 生活支援コーディネーターの設置
  - 3 地域ケア会議の開催
  - 4 生きがいミニデイサービス事業
  - 5 高齢者虐待防止への取り組み
  - 6 災害時における対策

#### 基本目標 3：認知症になっても安心して暮らせるまちをつくる

- 
- 1 認知症について理解する
  - 2 認知症予防事業の実施
  - 3 認知症ケアパスの作成、認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員の設置

#### 基本目標 4：年齢を重ね介護が必要な状態となっても、可能な限り、葉山町で暮らしていけるまちとする

- 
- 1 ひとり暮らし高齢者等への支援体制
  - 2 要介護高齢者の把握
  - 3 日常的な見守り活動や助け合い活動の推進
  - 4 介護給付等費用適正化事業
  - 5 予防給付サービスの推進
  - 6 介護給付サービスの推進
  - 7 地域密着型サービスの推進
  - 8 その他サービスの推進